

令和6年度

# 文化庁活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

## 東京都

自治体名：東京都

担当課名：教育庁指導部指導企画課

電話番号：03-5320-7474

# 1.自治体の基本情報



## 基本情報

面積	2199.94 km <sup>2</sup>
人口	14,195,193 人
公立中学校数	605 校
公立中学校生徒数	228,906 人
部活動数	3,041 部活
都道府県の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
都道府県の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

## 地域連携・地域移行における都道府県の現状・課題

東京都では令和5年3月に「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」を策定した。今後は、本推進計画に基づき、区市町村における部活動の地域連携・地域移行を進めていく。

東京都公立中学校には、運動部約5,000部、文化部約3,000部が設置されており、そのうち、休日も活動している部活動は、運動部約70%、文化部約20%である。

また、専門的な技術指導ができる顧問を配置している部活動は、運動部、文化部ともに、約55%である。部活動指導員（学校教育法施行規則第78条の2に規定する部活動指導員をいう。以下同じ。）の配置は、運動部約

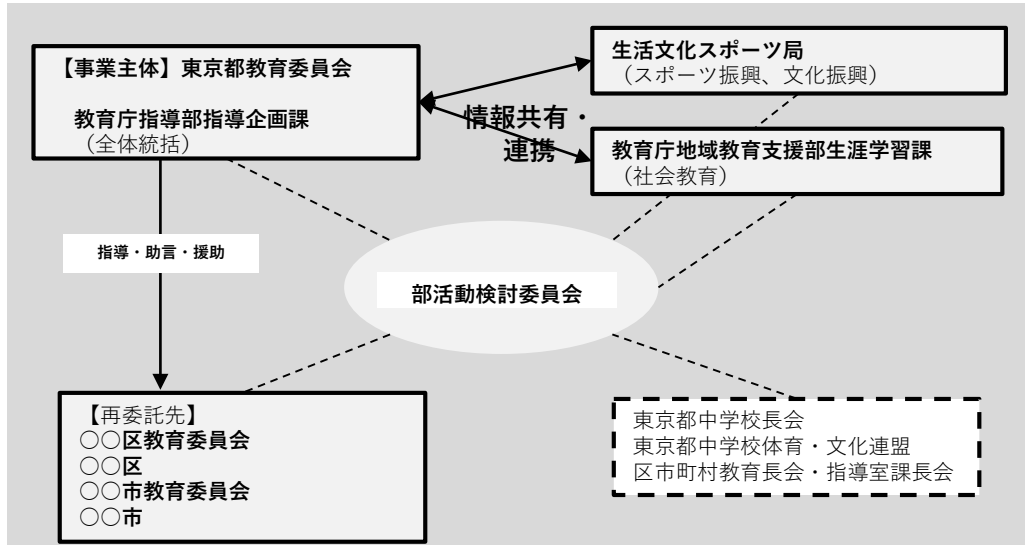
10%、文化部約5%、有償ボランティアの位置付けで、主に専門的な技術指導を行う外部指導者を配置している部活動の割合は、運動部、文化部ともに約30%である。

これまで「学校単位」で教員が担うことを前提として行われてきた部活動の教育的意義や役割を地域に継承・発展しつつ、生徒が地域でスポーツ・文化芸術活動に親しめる環境を構築していく必要性について、生徒をはじめ、学校、地域、保護者で共通理解を得られるよう意識改革を図り、部活動の地域連携・地域移行に取り組む必要がある。

## 2.実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ●運営体制図（都道府県における推進体制図）



#### ●行政組織内での役割分担

##### ◎教育委員会

・事業総括

##### ◎首長部局

・教育委員会との連携、学校部活動の地域連携・地域移行に関する連絡協議会、部活動検討委員会への出席等

### 年間の事業スケジュール

令和6年7月	部活動改革アンケート実施
令和6年8月	第1回学校部活動の地域連携・地域移行に関する連絡協議会開催
令和6年9月	第1回部活動検討委員会開催
令和6年11月	第2回学校部活動の地域連携・地域移行に関する連絡協議会開催 実証事業参加区市町村現地視察及び情報交換（～12月）
令和6年12月	第2回部活動検討委員会開催
令和7年2月	第3回学校部活動の地域連携・地域移行に関する連絡協議会開催
令和7年2月	第3回部活動検討委員会開催
随時	区市町村教育委員会への情報提供・指導助言 Tokyo体育健康教育ポータルでの情報発信

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

- ・関係者で組織する部活動検討委員会及び学校部活動の地域連携・地域移行に関する連絡協議会を年3回開催
- ・区市町村における取組を支援するため、都内全区市町村にヒアリング等を行い状況確認・指導助言を行うほか、実証事業に参加する地区には、活動現場を現地で確認の上、事業実施に関する情報交換を実施

##### 取組の成果

部活動検討委員会及び学校部活動の地域連携・地域移行に関する連絡協議会において、様々な立場から、中学校等における部活動の地域移行に向け、持続可能なスポーツや文化芸術環境の構築に当たっての課題等について御議論いただいた。

都内全区市町村へのヒアリング、及び実証事業に参加する地区に対しての活動現場の現地視察・事業実施に関する情報交換においては、各地区の抱える課題等についての情報交換のほか、各地区における今後の展望や、力を入れている取り組み等について御紹介いただいた。

地域関係者用と都に公立学校保護者用の2種類のリーフレットを作成し、管下の区市町村教育委員会、都立学校、スポーツ団体、文化団体等へ配信し、東京都における地域連携・地域移行について、広く周知した。また、ニュースレターを年3回作成し、部活動改革シンポジウムや区市町村の取組等を発信した。

##### コーディネーターの具体的な動きの実績

上記取組内容については、都教育委員会職員が自ら運営・実施しており、専任コーディネーターがこれらの業務を担当してはいない。

##### 今後の課題と対応方針

議論等の中で、実施運営に当たり様々な課題も見えてきたところである。引き続き区市町村の取り組みを支援していくため、広域自治体として連絡調整や情報発信、助言等を行っていく。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

##### 取組事項

- ・都内のスポーツ・文化芸術環境に関する情報を集約し、域内の区市町村に対し提供するなど、広域的な調整や学校の設置者に対する助言・支援を行う。
- ・外部指導者向けの研修動画を作成し、指導者育成のためのツールとして関係者に活用を促す。

##### 指導者研修の内容

- 第1章 部活動の教育的意義と適切な運営の在り方
- 第2章 部活動の在り方に関する方針
- 第3章 体罰、不適切な行為の防止
- 第4章 部活動における重大事故防止に向けた安全対策
- 第5章 部活動中における健康面での留意事項
- 第6章 各競技における重大事故防止のためのガイドライン
- 第7章 部活動の実践事例

##### 指導者研修の参加実績

- ・開催日：令和6年6月11日から7月31日まで
- ・開催回数：オンライン受講
- ・参加人数：未集計（都立校向け研修教材を御活用頂く形で対応）

##### 受講者の声

区市町村立中学校における指導者への受講アンケート等については行っていない。

##### 今後の課題と対応方針

区市町村において独自の研修を実施している地区が多いため、今後においても、独自研修を基本としながら、単独で研修メニューが用意できない地区等に活用していただく。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
**ウ：関係団体・分野との連携強化**  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

##### 取組事項

・地域のスポーツ・文化芸術団体、学校等の関係者の理解と協力の下、生徒の活動の場として、スポーツ・文化芸術活動を行う環境の整備について、関係会議等で情報提供していく。

・シンポジウムを開催し、部活動地域移行に関する理解を深める機会を創出する。また、都内の関係大学と連絡会を開催し、連携に係る情報交換を行う。

##### 取組の成果

令和6年9月22日に、「部活動の地域連携・地域移行シンポジウム」を開催した。シンポジウムの中では、東京都、区市町村、大学、総合型地域スポーツクラブの取組みに関する発表のほか、外部有識者で開催するパネルディスカッション、個々の理解を深めるための分科会の開催などを行った。

令和6年9月22日に、「部活動の地域連携・地域移行シンポジウム」を開催した。シンポジウムの中では、東京都、区市町村、大学、総合型地域スポーツクラブの取組に関する発表のほか、外部有識者で開催するパネルディスカッション、個々の理解を深めるための分科会の開催などを行った。

##### バス等の運行実績

都においては、バスを利用した取組みは行っていない

##### バス等の運航経費・収入

##### 今後の課題と対応方針

今後も関係団体等と連携を密にし、こまめな情報提供・情報交換を行っていく。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
**工：面的・広域的な取組**

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 工：面的・広域的な取組

#### 取組事項

・地域関係者向け・都立公立学校保護者向けの2種類のリーフレットを作成し、都立学校・区市町村教育委員会等へ通知し、周知した。各自治体のスポーツや文化の所管部署にも周知を依頼する他、スポーツ・文化団体等の研修等でも周知を依頼した。

#### 取組の成果

・保護者の地域移行の認知状況について、地域移行について知っている回答した保護者の割合が昨年度より約5ポイント増加した。また、希望の部活動が学校に設置されていない場合の対応として、「部活動の種目や分野が少なくなっても、お子様の学校にある部活動の中から選んで、参加させたい」、「参加させない」と回答した保護者の割合が減少し、「他の学校に、お子様が希望する種目や分野の合同の部活動があり、それに参加できるのであれば、参加させたい」、「住んでいる地域にお子様希望する種目や分野の地域クラブ活動があれば、参加させたい」と回答した保護者の割合が増加した。

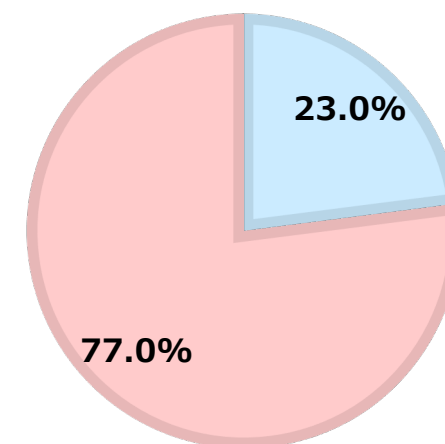
地域移行の認知が進んだ結果、地域クラブへの参加に肯定的な回答が増えたものと捉えている。

#### 今後の課題と対応方針

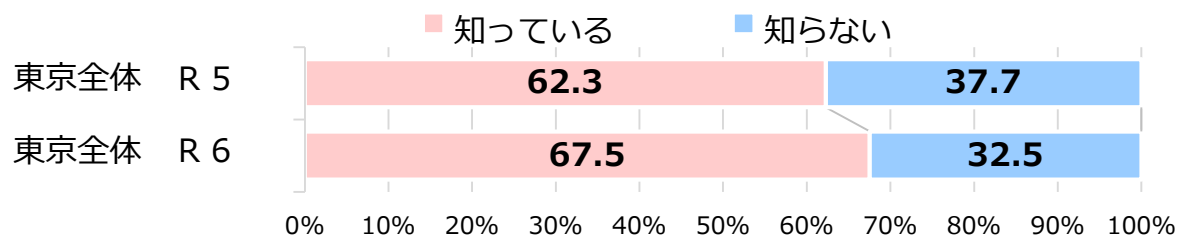
・生徒アンケートにおいて、部活動の地域移行について知っているか、今年度はじめて質問項目に入れたところ、「知っている」と回答した生徒は、全体の23%に留まっている状況が分かった。  
 ・生徒の地域移行の認知状況を改善するため、令和7年度は、子供向けのリーフレットの作成等を行う予定である。

### 【生徒】地域移行の認知 R6

■ 知っている ■ 知らない



### 【保護者】地域移行の認知 R5・R6の比較



# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

#### 取組事項

・各地区での実態に係る事例の情報収集を行うとともに、関係者向けアンケートの中で情報を収集し、区市町村へ情報提供していく。

#### ■現在、参加している部活動の部費

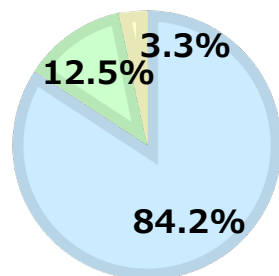
負担していない	1円～30,000円 (月1円～2,500円)	30,001円～60,000円 (月2,501円～5,000円)	60,001円以上 (月5,001円以上)
3,715	6,599	210	50
35.1 %	62.4 %	2.0 %	0.5 %

#### ■現在、参加している部活動の部費以外の費用負担

ユニフォーム・練習着・シューズ	交通費	防具・楽器等の購入費	登録費・大会参加費	負担していない	他	施設使用料	宿泊費
7,096	7,036	3,449	2,539	1,867	644	477	249
67.1 %	66.5 %	32.6 %	24.0 %	17.7 %	6.1 %	4.5 %	2.4 %

#### ■現在、参加している部活動の部費以外の費用負担の内容

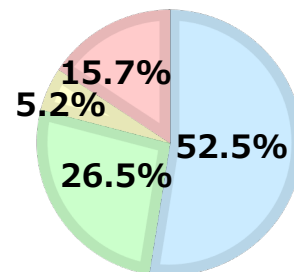
1円～30,000円 (月1円～2,500円)	30,001円～60,000円 (月2,501円～5,000円)	60,001円以上 (月5,001円以上)
7,332	1,091	284
84.2 %	12.5 %	3.3 %



- 1円～30,000円  
(月1円～2,500円)
- 30,001円～60,000円  
(月2,501円～5,000円)
- 60,001円以上  
(月5,001円以上)

#### ■地域移行した場合の費用負担

月3,000円～5,000円なら参加	月5,001円～10,000円なら参加	月10,001円以上でも参加	参加させない
6,049	3,057	603	1,809
52.5 %	26.5 %	5.2 %	15.7 %



- 月3,000円～5,000円なら参加
- 月5,001円～10,000円なら参加
- 月10,001円以上でも参加
- 参加させない

(出典)「未来へつなぐ部活動改革 アンケート」集計結果より(令和6年8月 東京都教育庁指導部指導企画課部活動振興担当)

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

##### 取組の成果

令和6年7月2日（火）から令和6年7月31日（水）まで、都内公立中学校、公立義務教育学校、公立中高一貫教育校622校の中学校第2学年の生徒及びその保護者、中学校第2学年相当学年の生徒及びその保護者、622校の教員を対象としてウェブフォームへ任意で回答するアンケートを実施し、約3万7千6百人から回答を得た。集計結果を管下の区市町村教育委員会へ提供するとともに、今後の資料として部活動検討委員会等で結果を分析した。

##### 今後の課題と対応方針

アンケートで把握した保護者の考えを踏まえ、参加費用負担について、確認を進める。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

東京都として、本事業において直接執行している内容がないことから、本事業外における取組等を通じて、事業実施地区への側面支援を行うことが対応の主となった。

今後においても、区市町村を主体としながら、様々な取り組みを通じて、広域自治体としての役割を果たしていく。

#### ●成果の評価

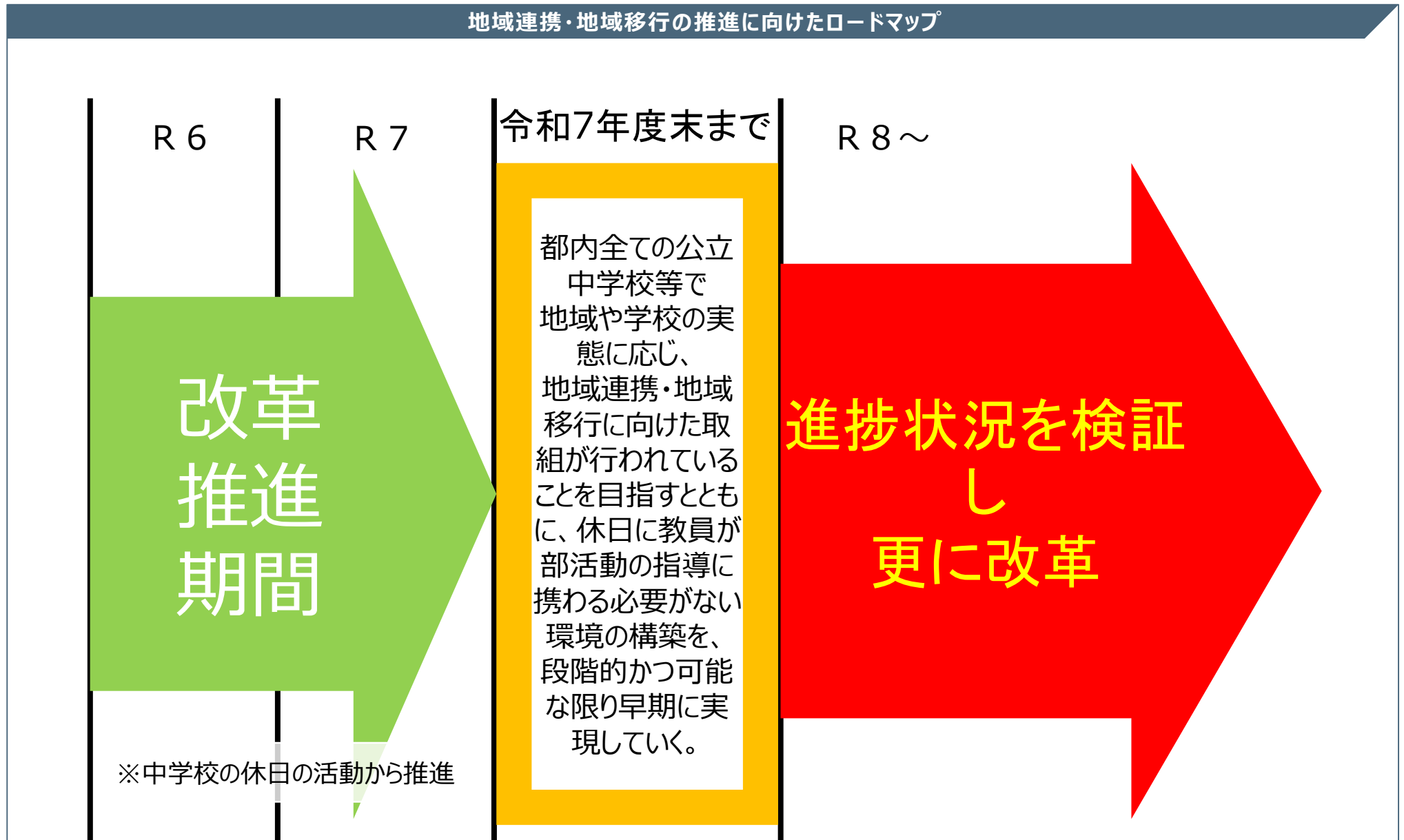
都としては、区市町村が事業実施においてより円滑に進めることができるよう対応してきたところであり、本事業外ではあるものの、連絡調整、情報収集、情報発信に努めてきた。その中で、地域によってばらつきはあるものの、実施に当たる課題も見えてきたところである。

#### ●今後に向けて

中学校における部活動を対象としているため、主対象はどうしても区市町村立中学校となる。そうなれば、区市町村を主として今後も事業展開が図られることとなるため、都としては、今後も引き続き連絡調整や情報発信、助言等側面支援に努め、区市町村における円滑な事業実施に資する。

# 3. 今後の方向性

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和6年度

# 文化庁活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

## 東京都渋谷区

自治体名：東京都渋谷区

担当課名：学びとスポーツ課

電話番号：03-3463-3296

基本情報	
面積	15.11 km <sup>2</sup>
人口 (令和6年10月1日時点)	231,751人
公立中学校数	8校
公立中学校生徒数 (令和6年5月1日時点)	2,003人
部活動数 (令和6年5月1日時点)	57部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	渋谷区スポーツ推進計画(第二期)策定済 令和7年度渋谷区部活動地域移行推進計画策定予定

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

### 1 生徒のニーズを踏まえた運動部・文化部の設置

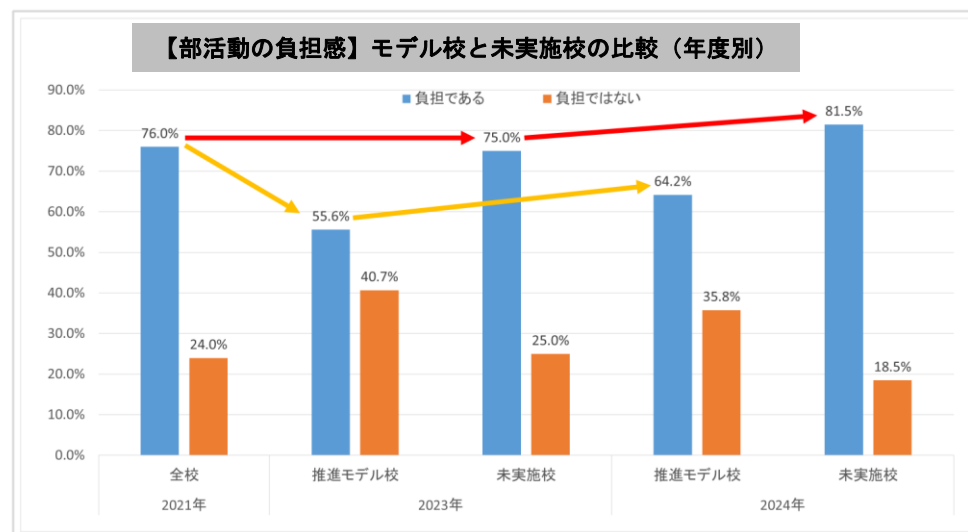
学校によって設置されている部活動の種目が限定され、生徒が希望する種目が必ずしも整っていない。例えばサッカー部は、8校の区立中学校の内3校のみにしかなく、すべての学校でサッカーを行うことはできない。また、文化部への希望や、障がいのある生徒等幅広く、変化する生徒のニーズには応えきれていない。

👉 **生徒のニーズに沿った部活動を設置するとともに、部活動の合同化を推進する。**

### 2 学校の働き方改革を踏まえた部活動改革

部活動は長年、教員の献身的な取組によって支えられており、長時間勤務の要因、指導経験がない教員の負担など大きな課題となっている。

👉 **教員の負担軽減を考慮した適切な指導体制の構築に取り組む。**



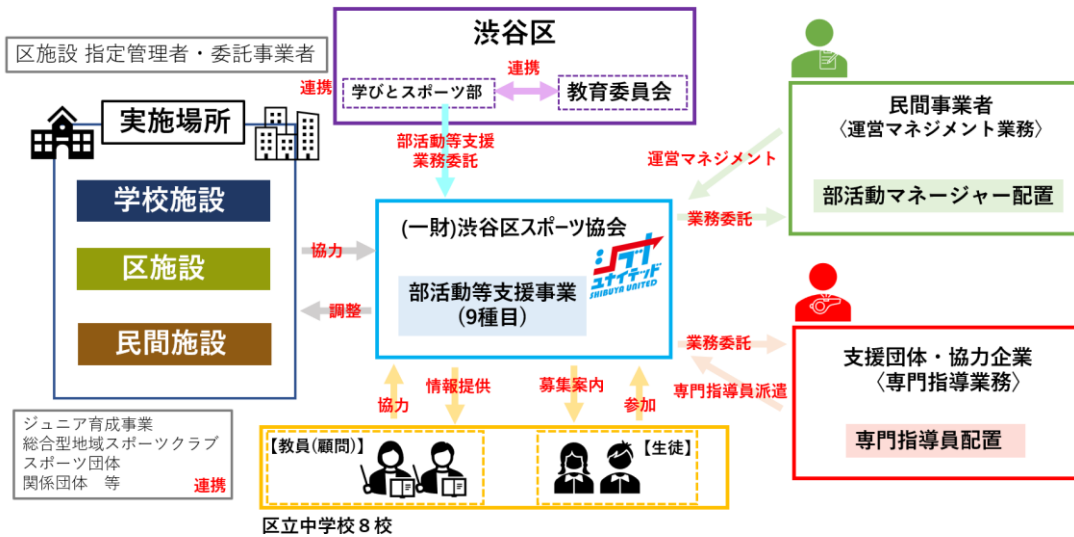
### 令和6年度区立中学校教員を対象とした意識調査

回答者数 2021年108人、2023年105人、2024年107人

# 2.実証内容と成果

## 運営体制・役割

### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



### ●行政組織内での役割分担

- ◎教育委員会（教育指導課）
  - ・学校現場調整
- ◎首長部局（学びとスポーツ課）
  - ・地域クラブ運営支援（一般財団法人渋谷区スポーツ協会へ業務委託）

## 年間の事業スケジュール

令和6年4月	前期募集開始 （見学・体験会）
令和6年5月	活動開始 保護者説明会/コアプログラム
令和6年7月	ポッチャ部大会出場
令和6年8月	ダンス部大会出場 サッカー部大会出場
令和6年9月	後期募集開始 （見学・体験会）
令和6年11月	ダンス部大会出場 将棋部大会出場
令和7年1月	ダンス部発表
令和7年2月	新学期活動広報開始
令和7年3月	新年度会員募集 （見学・体験会）

## 2.実証内容と成果

### 地域文化クラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	8校	実施した地域クラブ総数	9クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		9クラブ
全体の指導者数	38人	全体の運営スタッフ数	10人

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者(学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
将棋	(公社)日本将棋連盟	将棋	週1回	16:15～17:45	1年生2人 2年生1人	令和6年4月～ 令和7年3月	駒テラス 西参道	1人	2人(1人)	年会費 10,000円	地域クラブ
料理・スイーツマスター	服部栄養専門学校	料理	月2回	13:00～17:00	小学生25人 1年生16人 2年生22人 3年生17人	令和6年4月～ 令和7年3月	服部栄養専門学校	14人	2人(1人)	年会費 32,000円	

#### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 見学会の実施
- 体験会の実施
- コアプログラム※の実施

※・・・最新の機器を使用したゲーム感覚でスピードやパワー等の運動能力を計測し、科学的データをもとに身体を総合的にチェックするプログラム。  
スポーツ競技を実践するだけでなく、体力に寄り添う、主体性を伸ばす、けがを防止する3つのことに焦点を当てて実施。

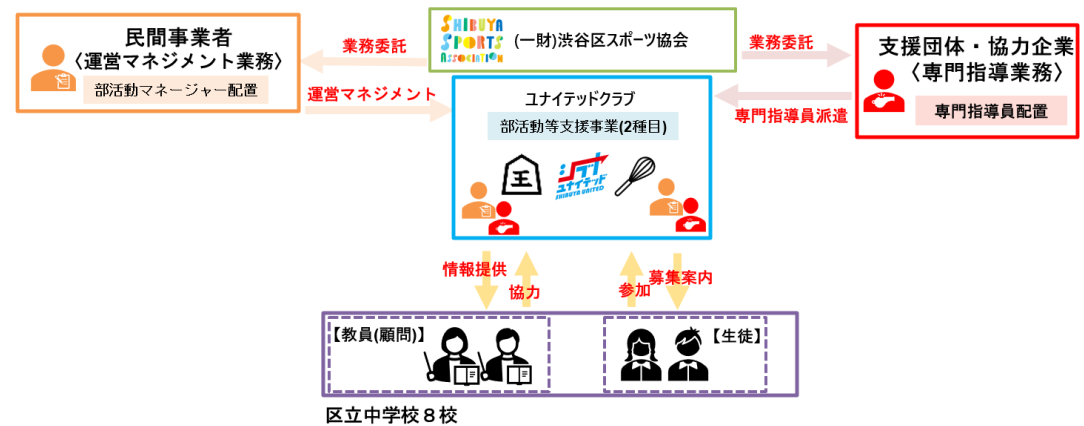
## 2.実証内容と成果

### 主な取組例

#### ● ユナイテッドクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	①将棋 ②料理・スイーツマスター
運営団体名	一般財団法人渋谷区スポーツ協会
期間と日数	①4月10日～3月26日(週1回程度) ②4月27日～3月22日(月2回程度)
指導者の主な属性	①日本将棋連盟指導棋士 ②服部栄養専門学校講師
活動場所	①駒テラス西参道 ②服部栄養専門学校
主な移動手段	徒歩、公共交通機関
1人あたりの参加会費等(年額)	①10,000円 ②32,000円
1人あたりの保険料	団体総合補償費用制度保険 生徒1人あたり：1,000円/年 指導者1人あたり ⇒他事業を含めて一括で保険加入しており、本事業のみで切り分けることができないため掲載不可

#### ● 運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



#### ● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- (一財) 渋谷区スポーツ協会  
役割：地域クラブ活動の全体の運営業務を行う
- 部活動マネージャー  
役割：生徒管理等の運営マネジメント業務を行う
- 専門指導員  
役割：生徒に対して技術指導を行う

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

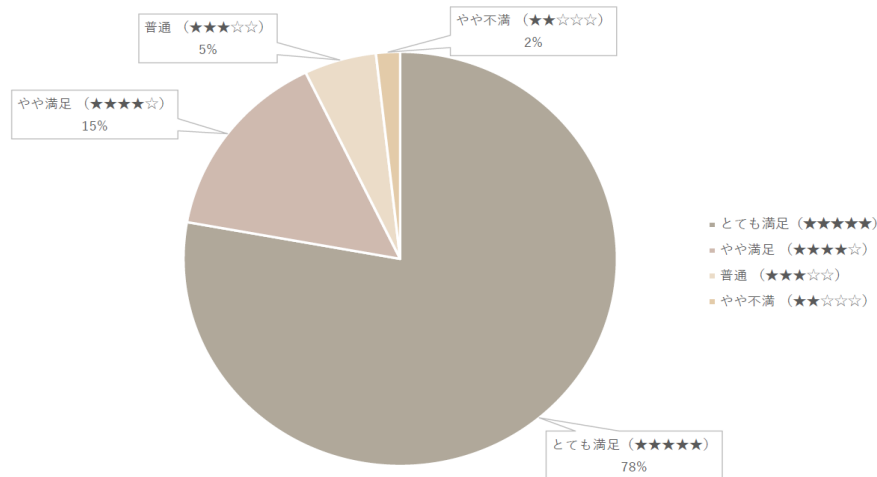
#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

一般財団法人渋谷区スポーツ協会（旧・一般社団法人渋谷ユナイテッド）が中心となり、学校ではなかなか出来なかった、生徒自身が「やりたい」クラブを渋谷区にゆかりのある企業・団体と連携しながら、実施した。区や関係団体との定期的な打ち合わせの場を作り、情報共有を行ってきた。関係団体から、専門的な指導を受けられるようにした。

##### 取組の成果

1. 参加しているユナイテッドクラブの満足度を教えてください。



ユナイテッドクラブに参加した生徒を対象としたアンケートの結果、回答者の93%が、ユナイテッドクラブの活動に満足していることがわかった。学校によっては希望する部活動がない、人数が少なく思うように部活動ができないという状況がある中で、ユナイテッドクラブを通して、生徒たちに充実した活動の場を提供できた。

【渋谷ユナイテッドクラブ 前期アンケート結果】 回答者数：167人

##### 今後の課題と対応方針

- ・参加した生徒の満足度を維持できるように、引き続き関係者間でのコミュニケーションを密にしていく。また、やや不満という回答もあったため、原因を分析し、改善していく必要がある。
- ・生徒のニーズを把握し、新規クラブの創設を検討していく。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
**イ：指導者の質の保障・量の確保**  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

#### 取組事項

一般財団法人渋谷区スポーツ協会が中心となって、渋谷区にゆかりのある企業・団体から指導者派遣を依頼し、専門性の高い指導を受けられる体制を整えた。

#### 登録者属性

日本将棋連盟指導棋士、専門学校講師

#### 種目

文化クラブは将棋、料理・スイーツマスターの他にデジタルクリエイティブ、eスポーツを実施。

#### 資格有無

有資格は求めているが、質の高い技術指導ができる企業や団体に依頼して、クラブの活動に適した講師を派遣していただいた。

#### 取組の成果

将棋では、日本将棋連盟から指導棋士三段の講師、料理・スイーツマスターでは、服部栄養専門学校から各回に日本料理担当・西洋料理担当・スイーツ担当の講師に指導してもらい、質の高い活動内容になっている。

#### ■大会結果（将棋）

令和6年11月30日実施

区長杯子ども将棋大会 団体戦 優勝

#### 講師紹介



#### 日本将棋連盟

講師：藤田一樹（ふじた かずき）

#### 講師紹介

服部栄養専門学校



日本料理担当  
西澤 辰男（にしざわ たつお）



日本料理担当  
森 寛典（もり ひろたか）



西洋料理担当  
伊丸 ゆう子（いまる おか ゆうこ）



西洋料理担当  
幸田 健太郎（こうだ けんたろう）



スイーツ担当  
大西 由紀子（おおにし ゆきこ）



スイーツ担当  
川瀬 幸司（かわせ こうじ）

出典：渋谷区スポーツ協会HP

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

**ウ：関係団体・分野との連携強化**

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



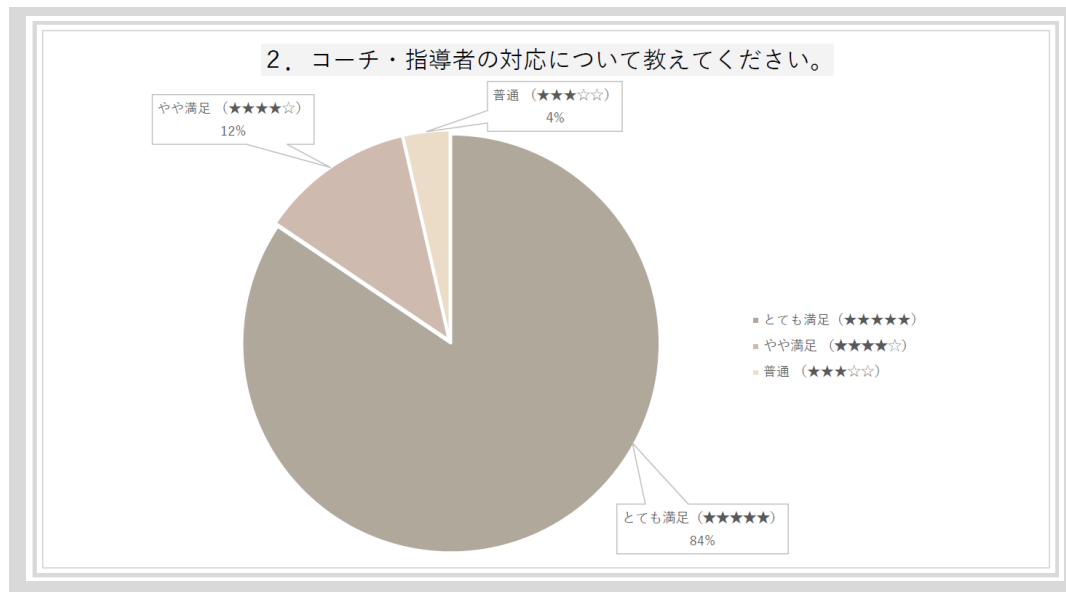
### 取組内容

#### ●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

##### 取組事項

一般財団法人渋谷区スポーツ協会（旧・一般社団法人渋谷ユナイテッド）が中心となり、本活動の指導に適した指導者の派遣をするために、関係団体と緊密に連携した。そして、区や関係団体との定期的な打ち合わせの場を作り、活動状況や課題を共有してきた。参加者募集について、区・学校現場と連携し、生徒に募集情報が行きわたるようにした。

##### 取組の成果



ユナイテッドクラブに参加した生徒を対象としたアンケートの結果、回答者の96%が、ユナイテッドクラブの指導者に満足していることがわかった。専門的な指導に加えて、料理専門学校調理室が会場にしているなど特別な会場での実施も、満足度に貢献してしたと思われる。

【渋谷ユナイテッドクラブ 前期アンケート結果】 回答者数：167人

##### 今後の課題と対応方針

- ・関係団体との連携を引き続き図り、指導者の質を保ち、参加した生徒の満足度を維持していく。
- ・生徒のニーズを把握し、新規クラブの創設を検討していく際も、専門的な指導者を配置できるようにしていく。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 オ：内容の充実

#### 取組の成果

##### ■指導者（スライド7参照）

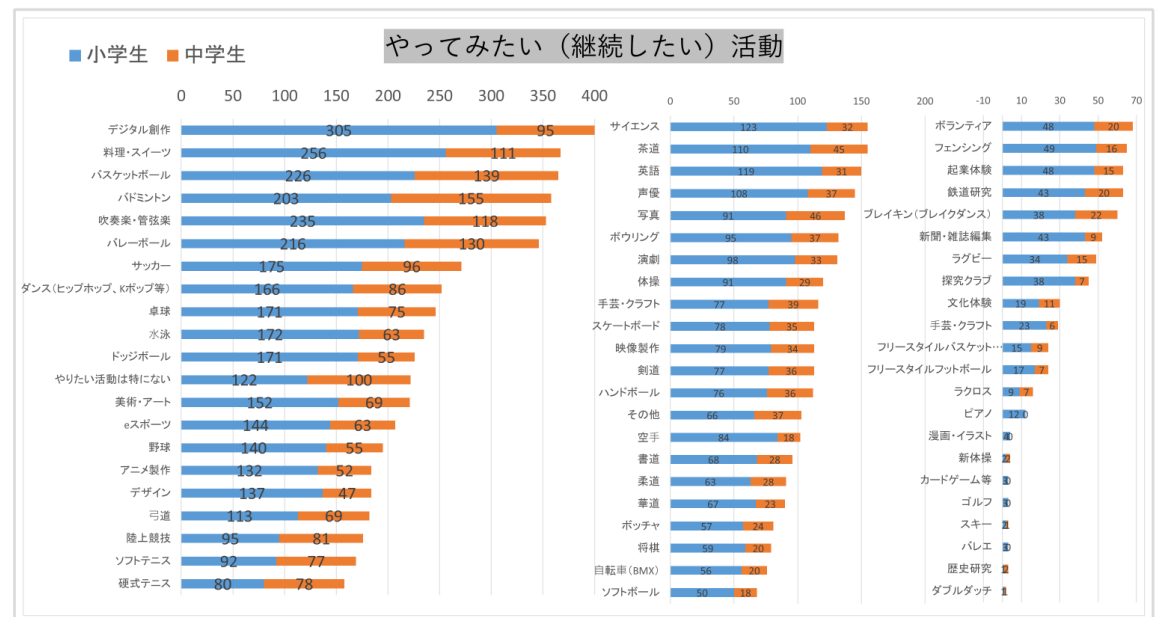
将棋では、日本将棋連盟指導棋士、料理・スイーツマスターでは、服部栄養専門学校の各ジャンルの講師というその業界のトップレベルの指導を受けることができた。

##### ■活動場所（スライド11参照）

将棋では、公益社団法人日本将棋連盟が管理する「駒テラス西参道」、料理・スイーツマスターでは、服部栄養専門学校を提供していただき、恵まれた環境で活動ができた。

### 今後の課題と対応方針

子どもたちのニーズを正確にとらえ、これまでの学校部活動ではなかなかできなかった、生徒自身が「やりたい」クラブを渋谷ならでの支援事業者とともに運営する「シブヤユニテッド」を実現、継続していく。そのために継続的に子どもたちへのニーズ調査を行いつつ、クラブの運営や指導にふさわしい、渋谷区とゆかりのある企業や団体を発掘、連携していく。



## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

##### 取組の成果

ユナイテッドクラブとして渋谷スタディクーポン※に参画し、参加費用負担を軽減し、誰でも本事業へ参加できるようにした。

※…生活保護世帯に属する渋谷区内の小学1年生から中学校3年生に対して、民間の教育機関（学習塾や文化・スポーツ教室など）で利用できる支援サービス

##### 利用状況

- ・将棋クラブ 0件
- ・料理スイーツマスタークラブ 0件

##### 今後の課題と対応方針

- ・ユナイテッドクラブの活動に、渋谷スタディクーポンが利用できることの周知の強化を図り、子ども達の参加機会の提供に努めるようにする。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
**キ：学校施設の活用等**  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 キ：学校施設の活用等

##### 取組事項

関係団体との協力により、活動場所の確保を行った。

##### 取組の成果

将棋では公益社団法人日本将棋連盟が管理する「駒テラス西参道」、料理・スイーツマスターでは学校法人服部学園が運営する服部栄養専門学校を活動場所として提供してもらった。



##### 今後の課題と対応方針

活動する場所の確保について、クラブによっては難航しているので、関係団体と連携を強化し、参加する生徒が安全・安心に参加できる場の提供を行っていく。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

- ・異なった学校同士の生徒との交流が生まれ、学校以外でのコミュニティの場となっている。
- ・学校にあまり登校していない生徒、学校部活動には参加していない生徒、特別支援学級の生徒も参加しており、生徒たちの活動の機会を提供できた。
- ・教育委員会事務局との連携を図り、活動日程の調整を行った（土曜授業、学校行事）。生徒が無理なく参加できる日程を設定した。
- ・学校部活動との兼部や複数のユナイテッドクラブへの参加を認めており、生徒たちが自分の興味のある活動に複数参加できるようにし、多様なニーズに対応してきている。

#### ●成果の評価

- ・ユナイテッドクラブに参加している生徒を対象としたアンケート調査では、概ねポジティブな回答が多く見られた一方で、ネガティブな回答もあった。実施回数や内容に物足りないと感じている生徒がいる。また、平日に実施しているクラブは授業後に行っているため、負担に感じている生徒がいると分析している。生徒一人一人の声を聞き、丁寧な改善に努めていく必要がある。
- ・指導者の専門性のある質の高い指導により、参加生徒の満足度が非常に高く、実施の成果を感じている。

#### ●今後に向けて

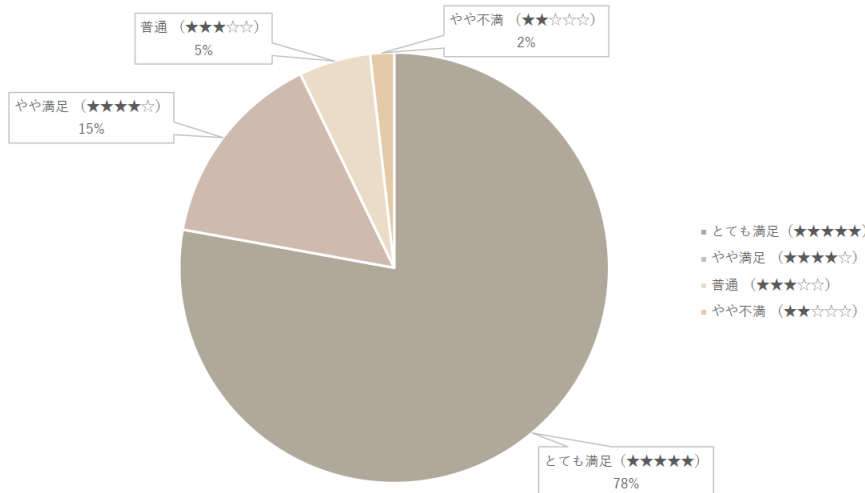
- ・受益者負担としての会費設定については、引き続き検討していく必要がある。
- ・持続可能な活動に向けて、関係団体と連携強化は必須になっていく。
- ・運動部については、地域移行を推進するモデル校運営を行っているが、文化部についても、学校部活動の現状把握を行い、今後、実施に向けての検討をしていく必要がある。

## アンケート結果・参加者の声

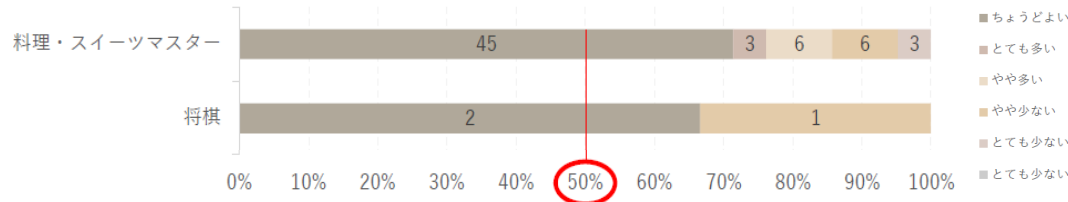
### ●アンケート結果

【渋谷ユナイテッドクラブ 前期アンケート結果】 回答者数：167人

#### 参加しているクラブの満足度について



#### ユナイテッドクラブの実施回数について



### ●自由意見

#### ●参加者の声

- ・月1～2回程度なので毎週にしてほしい。
- ・習い事が忙しく、クラブ活動にあまり力を入れられない。
- ・色々な学年がいて、話しかけ方がわからない（ため口、敬語）

#### ●保護者の声

- ・子どもが積極的に参加をしている姿から充実度が伝わってきた。
- ・勉強やテストの成績向上も見られ、学習面での効果も実感している。新たな挑戦が自信につながっているようだ。
- ・学校外での居場所ができたことで、子どもの世界が少し広がったと感じる

### 前期で退会した人の声

#### 退会理由

- ・受験のため
- ・習い事や部活動と実施時間帯が重なるため

#### 参加者（保護者）の声

- ・家族も本人も、大変満足度の高い部活動だった。
- ・料理により関心を持ち、基礎が学べた。日常的に料理をするきっかけになった。
- ・時間をもう少し遅い時間帯での実施なら土曜授業の日も参加できそう



## 2.実証内容と成果④

### 参考資料（活動写真）



【料理・スイーツマスター部の練習風景（料理）】

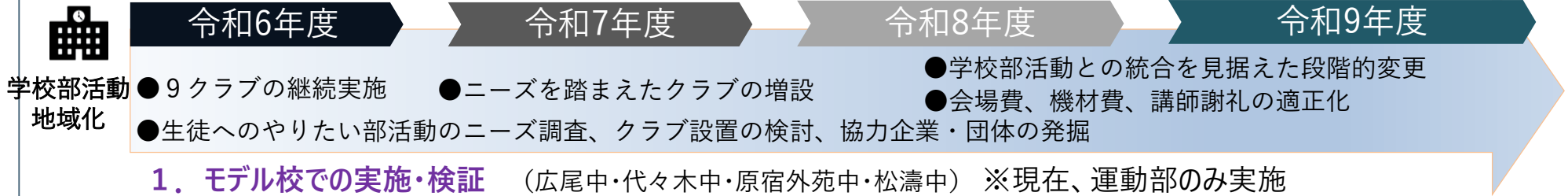


【料理・スイーツマスター部の練習風景（スイーツ）】



【将棋クラブの練習風景】

## 地域文化クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

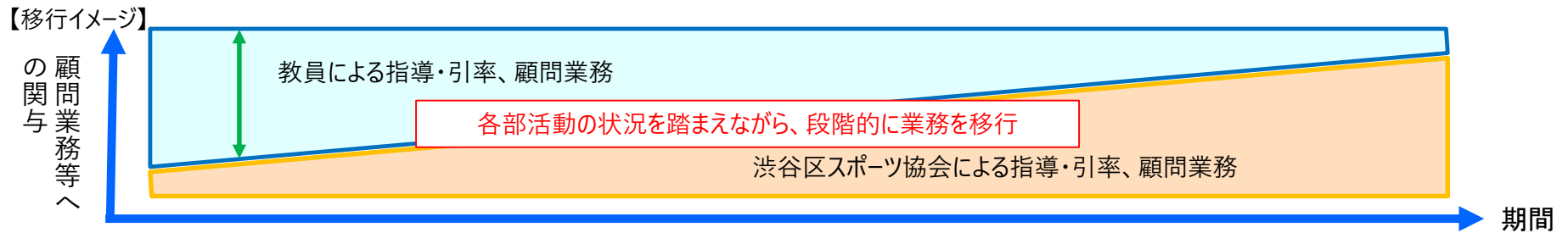


**1. モデル校での実施・検証**（広尾中・代々木中・原宿外苑中・松濤中） ※現在、運動部のみ実施  
 R6年度はモデル校2校を加え、区立中学校8校のうち4校で効果検証事業を実施。  
 各校には渋谷区スポーツ協会がスーパーバイザー、クラブマネージャー、ユナイテッドコーチ/サブコーチを配置し、平日・休日における運動部活動が円滑に、かつ安全に実施されるよう支援を行う。

モデル校に配置	主な業務内容
スーパーバイザー（総括責任者）	総括業務、研修会等の実施 等
クラブマネージャー	スーパーバイザー補佐業務、ユナイテッドコーチの事務業務フォロー 等
ユナイテッドコーチ/サブコーチ	専門技術指導及び競技大会引率、顧問業務 等

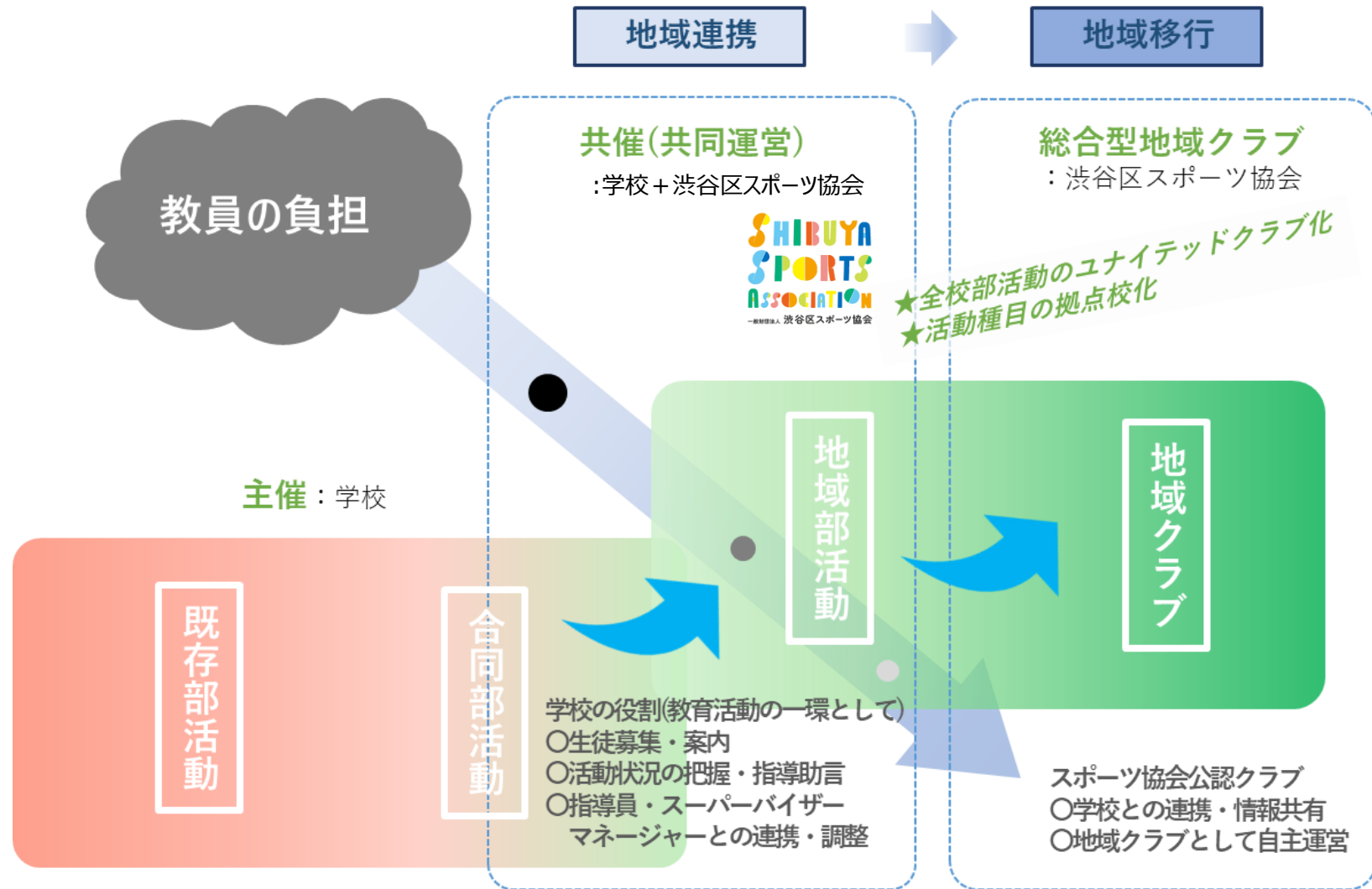
### 2. 地域移行を検証する上でのポイント

- (1) 生徒に混乱が生じないように、ユナイテッドコーチが大会等において監督・引率を行えるよう関係各所と調整を行う。
- (2) 質の高い指導者を確保・配置するとともに、生徒が安心・安全に活動できる環境を整備する。
- (3) 行政・学校・渋谷区スポーツ協会でのコミュニケーションを緊密にし、円滑な事業運営に努める。



# 3. 今後の方向性

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和6年度

# 文化庁活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

## 東京都板橋区

自治体名：東京都板橋区

担当課名：教育総務課

電話番号：03-3579-2261

# 1.自治体の基本情報



## 基本情報

面積	32.22 km <sup>2</sup>
人口	578,456 人
公立中学校数	22 校
公立中学校生徒数	9,350 人
部活動数	306 部活 (文化部：126)
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、板橋区では126の文化部活動が活動している。本区において、少子化の影響はあまり顕在化していないが、学校間の部活数の差が最大で13部もあり、一部の学校では団体種目などで部活動の停滞が既に起きている。

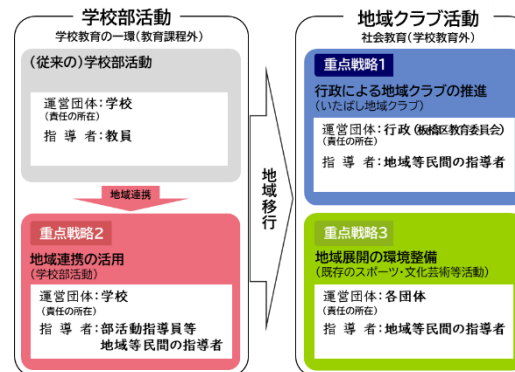
また、令和5年度に教員を対象として実施したアンケート調査では、約8割の教員が部活動の顧問として負担を感じていると回答。教員の献身的な支えによる学校部活動の維持には限界があり、持続可能性が低下している状況である。

そこで、部活動を持続可能な取組とするため、本区では、令和5年度に「板橋区立中学校部

活動地域移行検討会議」を設置し、2030年時点で実現したい将来像を設定する「板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030（以下、地域移行推進ビジョン2030）」を策定。「行政による地域クラブの推進」「地域連携の活用」「地域展開の環境整備」を重点戦略として設定し、地域移行推進ビジョン2030と合わせて、改革推進期間である令和7年度までの「板橋区立中学校部活動地域移行実施計画2025」を策定。

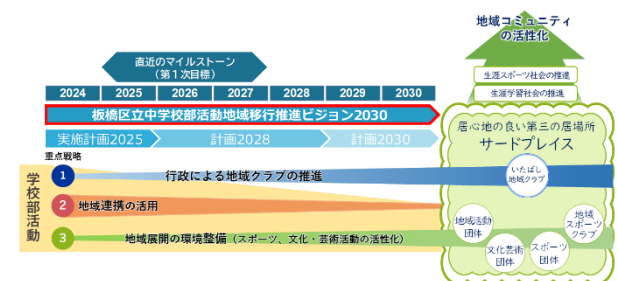
行政による地域クラブ「いたばし地域クラブ」を立ち上げ、令和5年5月より活動している。

### 学校部活動と地域クラブ活動の比較



出典：板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030

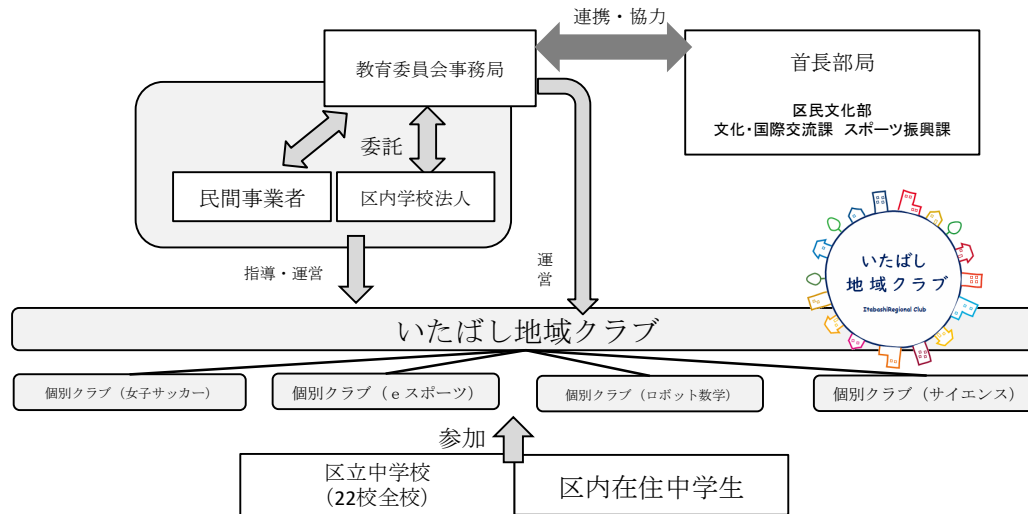
### 計画期間



出典：板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030

## 運営体制・役割

### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



### ●行政組織内での役割分担

#### ◎教育委員会

- ・いたばし地域クラブの運営及びデータ・知見・課題の整理
- ・既存学校部活動のいたばし地域クラブ化に向けた調整
- ・機運醸成のための「部活動地域移行シンポジウム（以下、シンポジウム）」の開催

#### ◎首長部局

- ・区内スポーツ、文化芸術団体をはじめとした地域人材を活用した地域移行への枠組みの検討

## 年間の事業スケジュール

令和6年4月

- ・「板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030」を各校に配布
- ・いたばし地域クラブの参加者募集
- ・いたばし地域クラブ保護者説明会

令和6年5月

- ・いたばし地域クラブ活動開始（令和6年度新規加入者）
- ・板橋区立中学校部活動の実態調査（学校向け）

令和6年6月

- ・第1回いたばし地域クラブアカデミー実施

令和6年7月

- ・第1回シンポジウム

令和6年9月

- ・第2回いたばし地域クラブアカデミー実施

令和6年11月

- ・第2回シンポジウム

令和7年1月

- ・第3回いたばし地域クラブアカデミー実施

- ・令和7年度に向けた保護者説明会

令和7年2月

- ・第3回シンポジウム

- ・いたばし地域クラブ体験会（小学6年生対象）

令和7年3月

- ・「いたばし地域クラブ」参加者アンケートの実施
- ・事業完了報告書・成果報告書等の作成

## 2.実証内容と成果

### 地域文化クラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	22校	実施した地域クラブ総数	3クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2クラブ
全体の指導者数	12人	全体の運営スタッフ数	5人

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
eスポーツクラブ	民間事業者運営型	eスポーツ (新)	週1回	16:30 ～ 18:00	9年 5名 8年12名 7年14名	通年	CLARK NEXT Tokyo	4人	2人 (内、兼務0人)	月会費 2,000円	地域クラブ
ロボット数学クラブ	民間事業者運営型	ロボット数学 (新)	週2回	日による	9年 1名 8年 7名 7年 7名	通年	オンライン または区立中学校	5人	1人 (内、兼務0人)	月会費 2,000円	なし
サイエンスクラブ	民間事業者運営型	自然科学	週1回	17:00 ～ 18:30	9年 0名 8年 3名 7年 9名	通年	区立教育科学館 または区立中学校	3人	2人 (内、兼務0人)	月会費 2,000円	なし

#### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

- いたばし地域クラブ体験会

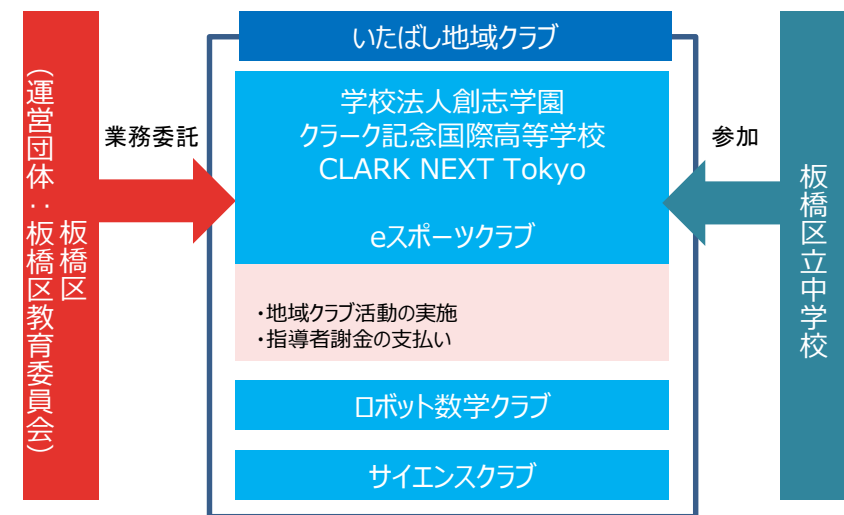
## 2.実証内容と成果

### 主な取組例

#### ●いたばし地域クラブ（eスポーツクラブ） 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	eスポーツ
運営団体名	板橋区教育委員会
期間と日数	通年 週1回程度
指導者の主な属性	委託先職員
活動場所	学校法人創志学園クラーク記念国際高等学校 CLARK NEXT Tokyo
主な移動手段	公共交通機関
1人あたりの参加会費等（年額）	24,000円
1人あたりの保険料	約798円/年（一括契約）

#### ●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



#### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

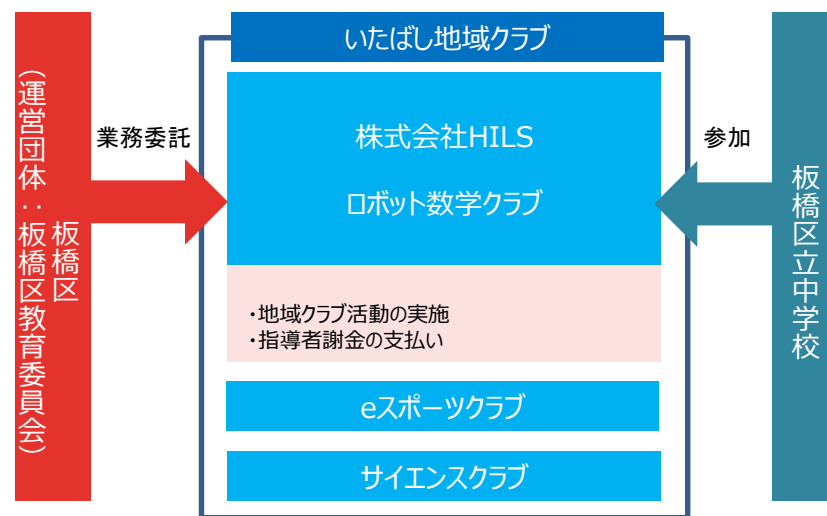
- 統括責任者  
役割：運営団体（区教委）との調整、活動報告を行う
- 指導者 4名  
役割：生徒への指導を行う
- 運営補助者 1名  
役割：活動において、出欠確認等生徒への指導以外の庶務を行う

## 主な取組例

### ●いたばし地域クラブ（ロボット数学クラブ） 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ロボット数学
運営団体名	板橋区教育委員会
期間と日数	通年 週2回程度
指導者の主な属性	委託先職員
活動場所	・オンライン ・板橋区立板橋第一中学校 ・板橋区立赤塚第二中学校
主な移動手段	公共交通機関
1人あたりの参加会費等（年額）	24,000円
1人あたりの保険料	約798円/年（一括契約）

### ●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者
  - 役割：運営団体（区教委）との調整、活動報告を行う
- 指導者 5名（活動時2名）
  - 役割：生徒への指導を行う

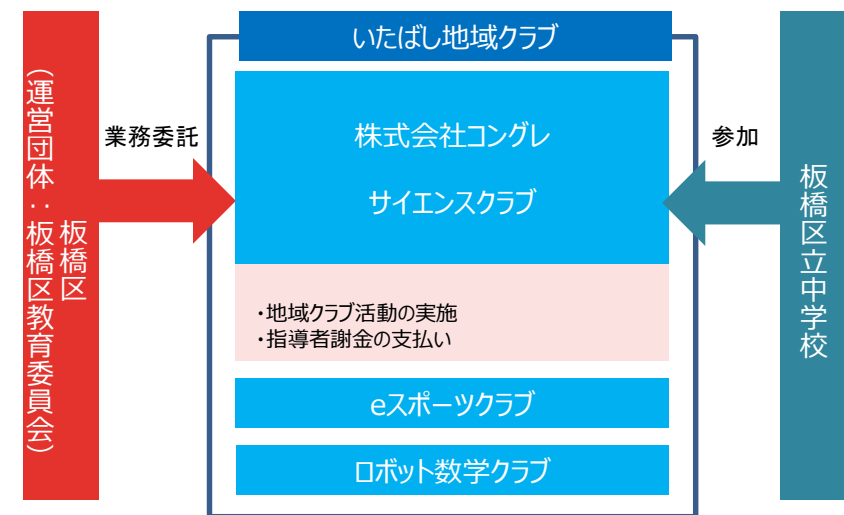
## 2.実証内容と成果

### 主な取組例

#### ●いたばし地域クラブ（サイエンスクラブ） 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	自然科学
運営団体名	板橋区教育委員会
期間と日数	通年 週1回程度 ※2会場に分かれて実施
指導者の主な属性	委託先職員
活動場所	・板橋区立教育科学館 ・板橋区立志村第四中学校
主な移動手段	公共交通機関・自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	24,000円
1人あたりの保険料	約798円/年（一括契約）

#### ●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



#### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者  
役割：運営団体（区教委）との調整を行う
- 指導者 3名  
役割：生徒への指導を行う
- 運営補助者 1名  
役割：活動報告等、諸事務を行う

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

○令和5年度に実践研究モデル事業として実施した「いたばし地域クラブ」を本格実施とし、部活動地域移行の課題・地域クラブ活動の運営にあたっての課題を着実に把握・検討すると同時に、中学生の活動の受皿となり、活動機会を確保する。

##### 取組の成果

○行政が運営団体となり「いたばし地域クラブ」を運営し、令和6年度は3つの文化地域クラブを実施した。

- ・eスポーツクラブは区内の高校に指導運営を委託しているが、当該校の生徒も指導に自主的に携わってくれたことにより中学生同士だけではない異年齢交流につながった。
- ・2年目（実証事業としては1年目）に入ったロボット数学クラブは下級生の入会により会員同士で教える関係が生まれた。
- ・新しく創設したサイエンスクラブは主体的に研究テーマを選択し、研究・発表を行う活動を中心として実施しているが、当初は各人が研究テーマを選択することに時間を要したため、次年度に向けて改善を図る。
- ・令和6年10月まで納付書払いによって行っていた会費の徴収を口座振替にすることで、保護者の負担を軽減することができた。
- ・これまで個別クラブによって、導入の有無を含め分かれていた運営管理システムを、令和7年度より統一の運営アプリを利用することになった。

##### 今後の課題と対応方針

- それぞれのクラブが順調に活動運営をできた一方で、どのクラブも定員を満たしていないことが課題となっている。また、中学生をはじめとした区民にまだまだ認知されていない状況であるため、広報プロモーション活動により力を入れて取り組む。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

##### 取組事項

○指導の質を一定に保ち、体罰やハラスメントを防止する。特に、区が運営団体となる「いたばし地域クラブ」においては、定期的に区職員が視察し、不適切な指導がないかを確認するとともに、適切な指導方法を研究していく。

○部活動や地域クラブ活動の指導者が指針とするものとして、東京都の「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」があるが、指導者の適性を担保するための研修内容について研究を行う中で、「いたばし地域クラブ指導ガイドライン（仮称）」の策定を検討する。

また、令和6年度より部活動指導員の人数を3名から44名に増員するため、部活動指導員も合わせての研修を検討する。

##### 取組の成果・今後の課題と対応方針

○いたばし地域クラブにおいては、区職員が定期的に視察し、指導者やスタッフとの意見交換を行うことで課題の整理に努めた。

また、委託事業者と定期的に意見交換を行い、改善を図ってきた。

●「いたばし地域クラブ指導ガイドライン（仮称）」については、現在指導運営業務を委託していることもあり、早急に策定する必要がなかったことから、策定に至っていない。文化クラブではなくスポーツクラブだが、令和7年度より中学校野球部を全面的に野球クラブへ移行するため、区職員が積極的に関わりながら、指導者向け手引きやガイドラインの策定を改めて検討していく。

●現在指導運営業務を委託していることから、部活動指導員と合わせての研修は実施できていないが、上述のとおり引き続き検討を進める。

（部活動指導員への研修は7月31日に実施）

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
**ウ：関係団体・分野との連携強化**  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

##### 取組事項

- スポーツ、文化芸術団体、保護者や教員と部活動の地域移行について共通理解を深め、機運を醸成する場として、「部活動地域移行シンポジウム」を開催する。
- 民間のスポーツ、文化芸術活動等を紹介するガイドブックを作成する。
- 中学生が安心して参加できるよう、適切な指導・運営の基準を定め、団体の登録・認証する制度の研究を進める。
- 上記の取組にあたり、スポーツ、文化芸術団体との協議、連携強化を積極的に行う。

##### 取組の成果・今後の課題と対応方針

○部活動地域移行シンポジウムを開催し、多くの関係者と意見交換をする機会を得ることができた。部活動は学校が主体となってやるべきか、様々な立場や視点から意見交換をすることで、地域移行の必要性について理解を深めることができた。

また、いたばし地域クラブ会員の保護者にもシンポジウムに参加いただき、いたばし地域クラブに子どもを参加させて良かったとの意見をいただくことができた。

●民間のスポーツクラブ・文化芸術活動を紹介するデジタルガイドブックを作成し、区立中学校の生徒が使用する一人一台端末へ配信したが、紹介に至ることのできたクラブ等が少なく、今後順次増やしていく必要性を感じている。

●団体の認証制度については、他自治体の先進事例を参考にし、今後研究を進めていく。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実

##### 取組事項

○種目・分野の技術の習得や向上のみを目的とせず、参加者同士の交流を促進し、主体性を育むことを目的に定期的なミーティングを行うほか、レクリエーション的な活動を取り入れたクラブ活動を運営する。

##### 活動の詳細

「地域文化クラブ活動の運営実績 ②各クラブに関すること」参照。

##### 取組の成果

○eスポーツクラブは、普段の活動からも参加者同士の交流が図れており、クラブ内の大会を開催することもある。

○ロボット数学クラブは、ロボット実習の時には、上級生が下級生に教えるなど、異年齢の交流が図れている。

○サイエンスクラブは、年間を通して主体的に自らの研究テーマを設定し活動することを目標とし活動していた。

##### 今後の課題と対応方針

●eスポーツクラブは、クラブ内の大会は開催しているが、対外的な大会に挑戦する機会を提供できていないため、検討していく。

●ロボット数学クラブは、クラブ員が主体的に成果などを披露できる場を提供していくことを検討していく。

●サイエンスクラブは、自らの研究テーマをなかなか設定できないクラブ員がいたため、サポート体制をより充実させていく必要がある。そのため、令和7年度はサポートスタッフを増員して実施していく。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

##### 取組事項

○「いたばし地域クラブ」に参加する困窮世帯に対して、必要な経費の支援を検討する。

##### 取組の成果

○困窮世帯（就学援助認定者）を対象に支援金を支給する制度を検討したが、制度の見直し及び内部調整などが引き続き必要となった。

- ・いたばし地域クラブ（行政による地域クラブ）のみが支援されるべきか、地域展開の環境を整備するうえでは民間の地域クラブに困窮世帯が参加しやすくなる支援の在り方を検討する必要がある。
- ・一方で、地域クラブの定義が曖昧な部分があり、広義で捉えて支援することの是非について、引き続き検討が必要となった。
- ・今後、中学生の受皿となる団体の認証制度など、どの地域クラブに参加する生徒を区が支援していくか基準を設ける必要があるかを検討していく。

##### 今後の課題と対応方針

○現行では、民間の地域クラブについて定義が曖昧であり、支援の対象となる地域クラブとはどのようなものか、もしくは中学生が学校外で何かをする場合は全て地域クラブなのかも含め検討していく。

- 行政による地域クラブではない民間の地域クラブについて、地域クラブの定義を検討していく。
- 同様に、認証制度の検討を開始することで、あるべきガバナンス等についても検討する。
- 上記にあたっては、他自治体の先進事例等も参考にし、今後研究を進めていく。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
**キ：学校施設の活用等**  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 キ：学校施設の活用等

##### 取組事項

○現行部活動の合同部活動化を推進し、学校施設利用の調整を行う。

##### 取組の成果

- 合同部活動化に向けて学校との調整ができず、成果は上げられていない。
- 地域移行の取組・調整を優先して取り組む中で、活動に支障がある状態にもかかわらず合同部活動化できていない部活動もあることがわかった。事情を聞き取りするなかで、学校から主体的に合同部活動化を進めることには限界があることを実感した。
- 学校施設は現在多くが現行の部活動で活用されているが、現状でも活動場所を十分に確保できていないと感じている部活動もある。合同部活動化を進めることで施設の空白時間ができるわけではないことも判明した。

##### 今後の課題と対応方針

- 都市部ではなかなか部活動と地域クラブ活動を並存させながら充実した活動を行える施設数と面積がない。
- 現状の部活動であっても、十分な活動ができていると言い難い部活動も散見され、合同部活動化をすることで必ずしも学校施設が空くわけではない。一方で、合同部活動化しない（できない）ことにより学校施設の問題ではなく、生徒たちの活動が停滞している実態もある。
- 引き続き、学校部活動の実態把握に努め、充実した活動の機会を確保できるような取組を検討する。
- 合同部活動化だけでなく、現行の部活動をいたばし地域クラブへ移行し、その空いた場所を同様に地域クラブの活動場所として利用していく。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

令和5年度より実践研究モデル事業として実施している「いたばし地域クラブ」が2年目となり、地域クラブ活動の運営にあたっての課題を把握し、検討することでノウハウを蓄積できてきた。

しかし、一方で、課題の多くは、解決まで至っていない、今後も検討していく必要がある。

特に、各クラブともに定員を下回っており、区立中学校生徒にヒアリングした際にもまだ認知度が低く、広報活動に力を入れ認知度を上げていく必要があるとともに、地域クラブに入会する利点を生徒が見出せるような工夫を引き続き検討していく必要がある。

また、各クラブともに週1回から2回程度の活動であるため、現行部活動との兼部をしている中学生が多く、部活動の代替、部活動に置き換わる活動にはなれていない。

#### ●成果の評価

行政が運営団体となった地域クラブの活動しての形は、一定程度作りあげることができた。

また、現行部活動との兼部をしている中学生が多いということは、複数種目・分野に取り組んでいる環境にできているということでもあり、今後も区としてそういった環境を提供していけるよう整備を続けていきたい。

#### ●今後に向けて

現行の部活動を地域クラブに移行するための調整を引き続き検討していく。



### 参加者の声



#### 中学8年生（ロボット数学クラブ）

父がプログラマーなので、いつか自分もプログラミングができるようになって手助けしたいと思い、参加しました。高校生レベルの数式が出てきますが、解けたときはやりがいを感じます。

#### 指導者（ロボット数学クラブ）

チャレンジすることの大切さを教えることができればと思っています。失敗から新たな発見があったり、私たちでは思いつかない柔軟な発想が出ることもあります。子どもたちの柔軟な発想・新しい可能性を否定せず、大切にしたいと心がけています。

【出典：区広報紙での特集】



#### 中学8年生（eスポーツクラブ）

もともとゲームが好きで興味があり、eスポーツクラブに参加しました。専門的なアドバイスやコツを教わり試すことで、あきらめない気持ちが鍛えられました。対戦で勝つとうれしいので、これからも勝てるように頑張っていきたいです。

#### 指導者（eスポーツクラブ）

生徒一人ひとりの性格やプレイスタイル・個性を伸ばしてあげたいと思いながら、丁寧なコミュニケーションを心がけています。

また、ゲームの技術的な操作以外にあいさつ・マナーなども意識して教えるようにしています。仲間との協力やコミュニケーションの大切さが育めるクラブです



# 2.実証内容と成果③

## 広報資料

いたばし地域クラブについては、区の様々な広報媒体で周知を行っている。令和6年6月には、板橋区の広報紙で特集が組まれ、令和5年度から実施しているクラブが紹介された。

また、チラシを作成し生徒の参加啓発をするほか、板橋区内の特色ある事業や取組、街の魅力を発信するテレビ番組「魅力発信！いたばしナビ」でも部活動改革の経緯を含め、いたばし地域クラブの取組を紹介している。

板橋区の中学生们が集まれ！  
**いたばし地域クラブ**  
メンバー大募集！！

板橋区では、区立中学校部活動の地域移行に向けて、令和5年度から区内の中学生を対象とした「いたばし地域クラブ」が活動しています。随時体験も受け付けています。申込方法など詳細については、下部の二次元コードから区ホームページをご覧ください。

サイエンス  
女子サッカー  
eスポーツ  
ロボット数学

いたばし地域クラブ  
ItabashiRegional Club

お問合せ  
板橋区教育委員会事務局  
教育総務課 部活動改革担当係  
Tel.03-3579-2261

ホームページはこちら  
QRコード

広報 ITABASHI 6.8 特集号

ロボット数学  
robot math

女子サッカー  
women's soccer

eスポーツ  
e-sports

「いたばし地域クラブ」本格始動

広報 いたばし 6月8日(水) 6月号(8頁) 11頁

夢中になれるを応援する 「いたばし地域クラブ」が活動中!!

いたばし地域クラブは、中学校の部活動に代わる新しい活動の場となることをめざした地域クラブ活動です。eスポーツ・女子サッカー・ロボット数学クラブに、サイエンスクラブが加わり、活動しています。中学生たちは、他校の中学生と新たな人間関係を築き、人とのつながりを感じながら、自分のやりたい活動・分野に挑戦しています。今回は、いたばし地域クラブに所属する中学生・指導員に、やりがいや魅力を伺いました。

問合せ 教育総務課部活動改革担当係 ☎3579-2261

なぜ部活動改革が必要なのか?

中学校の部活動は、少人数による活動の選択の少さや、異なる部活動の異なる部活などにより、指導員の確保が難しくなっています。区では、区立中学校の部活動を学区単位から社会教育分野へ領域移行し、専任スタッフと教員・生徒が主体となる新たな仕組みの構築をすすめています。その主な取組として、板橋区教育委員会が主体となる新しい「いたばし地域クラブ」を創設し、立ち上げました。

女子サッカークラブ

ロボット×数学ってすごい

eスポーツクラブ

ゲームだってスポーツだ

「憧れ」から一歩踏み出して

サイエンスクラブが活動開始

興味がある中学生は参加してみよう!

体験入会

【生徒への参加啓発チラシ】

【区広報紙での特集】

出典:板橋区ホームページ

出典:板橋区ホームページ

## 2.実証内容と成果④

### 参考資料（活動写真）



【eスポーツクラブ】



【ロボット数学クラブ】



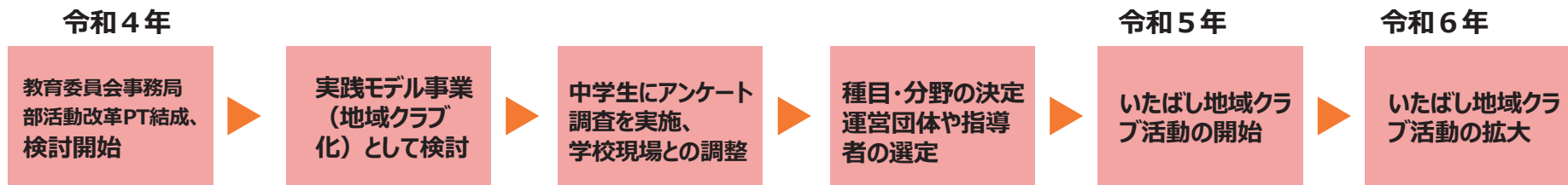
【サイエンスクラブ（通常活動）】



【サイエンスクラブ（企業訪問）】

## 2.実証内容と成果

### 地域文化クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



#### ステークホルダー

学校、生徒、保護者、板橋区教育委員会事務局、民間事業者

#### 経過

令和4年度に教育委員会事務局の職員で部活動改革PTを結成し、改革に取り組み始めた。現行の部活動にある種目・分野を地域クラブ化することは、学校及び生徒、保護者への説明も十分でない中では影響が大きいと判断したため、現行の部活動にない種目・分野をモデル事業として取り組んでいくこととした。そのため、種目・分野を決定するにあたり、区立中学校の全生徒にアンケート調査を実施した。

その後、立ち上げるクラブの種目・分野を決定し、運営団体の選定を行い、令和5年度に「いたばし地域クラブ」の地域クラブ活動として、「女子サッカー」「eスポーツ」「ロボット数学」の3クラブの活動を開始した。令和6年度には、さらに「サイエンス」を創設し、活動を拡大した。

#### 実施にあたって生じた主な課題

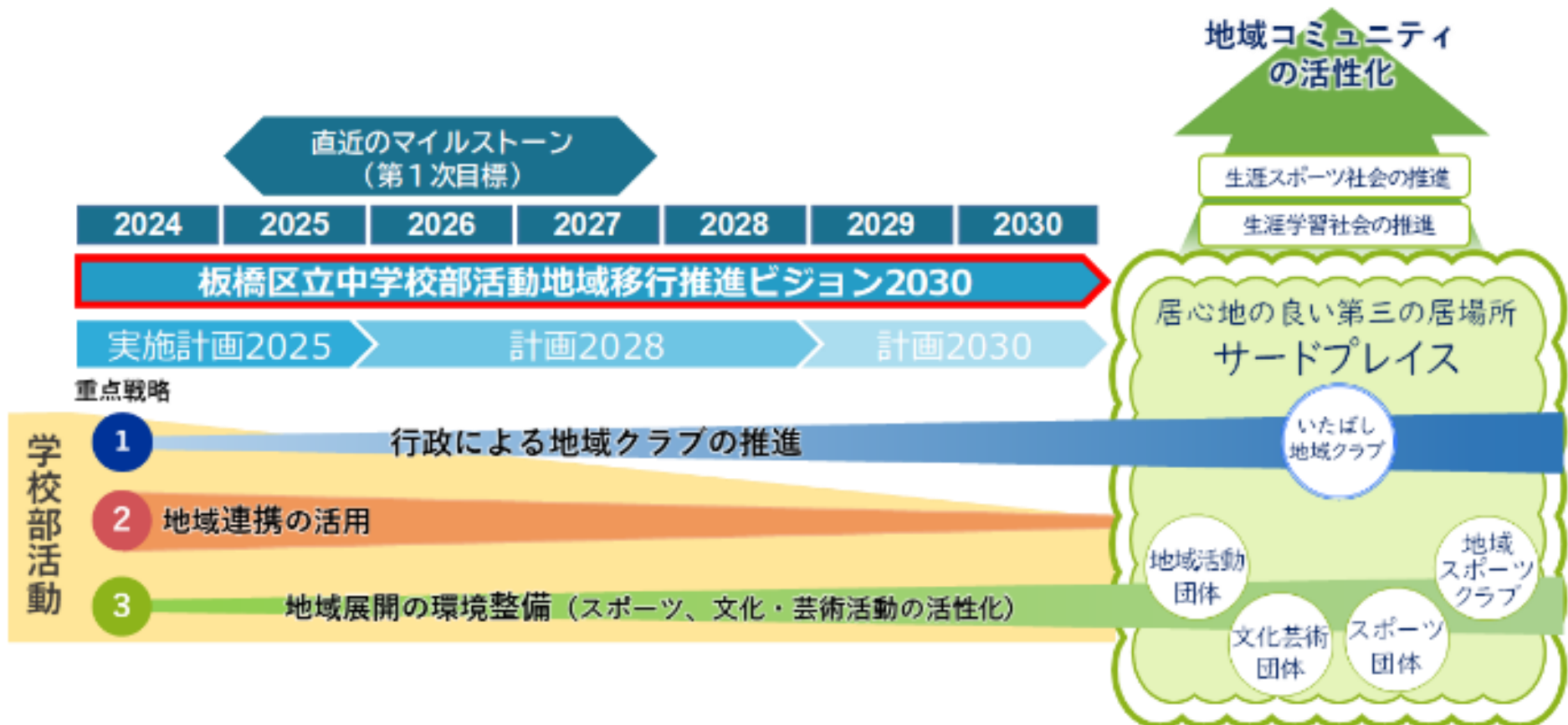
- ・活動場所の確保と選定
- ・指導者の確保
- ・学校現場との調整
- ・会費の設定

#### 今後の展開

令和7年度からは、現行の学校部活動にある種目「野球」の地域クラブ化に取り組んでいく。

# 3. 今後の方向性

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



出典：板橋区立中学校部活動地域移行推進ビジョン2030



令和6年度

# 文化庁活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

## 東京都日野市

自治体名：東京都日野市

担当課名：教育委員会 教育部 教育指導課

電話番号：042-514-8728

# 1.自治体の基本情報



## 基本情報

面積	27.53 km <sup>2</sup>
人口	187,494人
公立中学校数	8校
公立中学校生徒数	4,318人
部活動数	70部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	令和4年度に設置済み 「日野市地域文化スポーツ連携協議会」
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

### 【現状】

令和4年度、本市は教育委員会に加え、スポーツ・企画部局、地域企業、スポーツチーム、大学、団体が参画する「日野市地域スポーツ連携協議会」を発足。持続可能な地域スポーツの運営基準、人材・財源確保について協議を進めた。令和5年度には、「ひのスポ!」「ひのカル!」の拠点校・種目拡大、人材確保、受益者負担や寄付・協賛を含む財源確保の検討を行い、持続可能な地域文化・スポーツ環境の構築を目指した。

### 【課題】

#### 統括団体の設置

令和4年度に設置された「日野市地域スポーツ連携協議会」（令和5年度より「日野市地域文化スポーツ連携協議会」）は、教育委員会が主体となり運営を継続している。しかし、持続的な事業運営と財源管理のため、法人化を検討し、自立・自走できる統括団体の設置を目指す。

#### 連携団体の拡大

市内約4,300名の中学生を対象に、持続可能なスポーツ環境の確保を進めた。令和5年度上半期には「ひのスポ!」I型を拠点校で本格実施し、下半期には地域スポーツ教室や習い事と連携した連携II型を導入。運営条件や責任を整理し、令和5年度の実績（I型14種目・連携II型2事業者）を基にさらなる拡充を進める。

#### 休日の学校部活動（教員負担軽減）への取り組み

教員は現在も休日の学校部活動を継続しており、負担軽減につながりにくい状況が続いている。そのため、学校と連携し、「ひのスポ!」が休日の部活動を補う取り組みを推進する。また、全教員を対象にアンケートを実施し、ニーズや課題を把握し、効果的な負担軽減策を検討する。

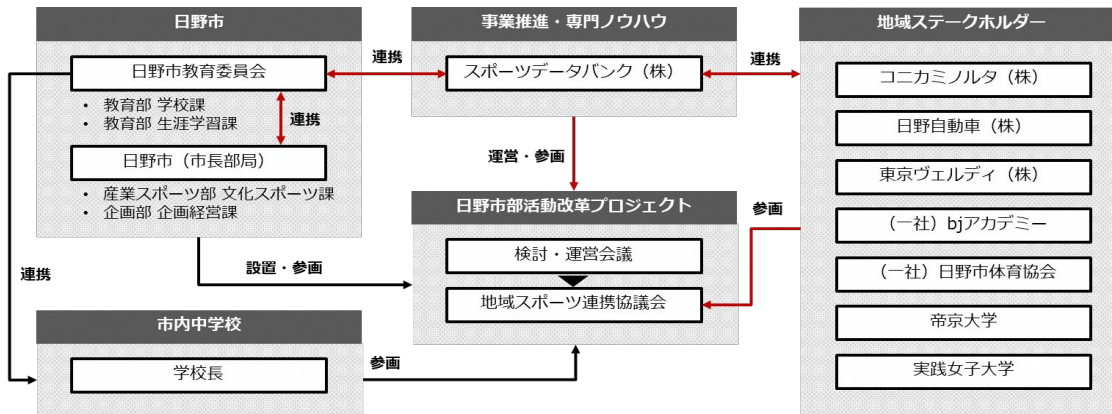
#### 外部資金の獲得

受益者負担の軽減を目的に、企業版ふるさと納税を活用した寄付受け入れの準備を進めている。首長部局（企画部等）と連携し、令和6年中の受け入れスケジュールを策定。経済的困窮世帯（就学援助世帯）を対象とした支援を実施し、持続可能な資金調達体制の構築を目指す。

# 2.実証内容と成果

## 運営体制・役割

### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



### ●行政組織内での役割分担

#### ◎教育委員会（教育部 教育指導課）

本事業の主管課・方針の決定

#### ◎首長部局（産業スポーツ部 文化スポーツ課、企画部企画経営課）

教育委員会との連携・財源確保・基金等の検討

## 年間の事業スケジュール

- 令和6年 4月 拠点校の選定 / プログラム実施準備
- 令和6年 4月 ひのスポ！ひのカル！周知チラシの配布
- 令和6年 4月 教員対象アンケート実施
- 令和6年 5月 連携Ⅱ型 団体募集
- 令和6年 5月 ひのスポ！ひのカル！奨学金事業利用者募集
- 令和6年 7月 ひのスポ！ひのカル！奨学金事業利用開始
- 令和6年10月 拠点校での「ひのカル！Ⅰ型」実証の開始
- 令和6年10月 第8回日野市地域文化スポーツ連携協議会の開催
- 令和7年 2月 拠点校での「ひのカル！」アンケート実施
- 令和7年 2月 次年度計画の決定
- 令和7年 2月 日野市地域文化スポーツ連携協議会の開催
- 令和7年 2月 事業完了報告書・成果報告書等の作成

## 2.実証内容と成果

### 地域文化クラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	8校	実施した地域クラブ総数	2クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0クラブ（0部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2クラブ
全体の指導者数	5人	全体の運営スタッフ数	4人

#### ②各クラブに関すること

種目	料理	マジック教室
指導者	ひの社会教育センター	音辻せいや（マジシャン）
実施期間	10/20（日）～3/9（日）	1/26（日）～3/9（日）
時間	10:00～13:00	日曜：13:30～15:30
申込期間	9/10（火）～9/24（火）	12/10（火）～1/8（水）
実施場所	日野市東部会館 2階料理実習室	日野市立日野第四中学校 食堂
参加対象	市立全中学校生徒／市立全小学校5,6年生児童 ※初心者歓迎	市立全小学校5,6年生児童／市立全中学校生徒 ※初心者歓迎
定員	16名	30名程度
参加費	800円（税込）+6,000円／6回分食材費実費	800円（税込）
日程	①10/20（日） ②11/10（日） ③12/15（日） ④1/19（日） ⑤2/16（日） ⑥3/9（日）	①1/26（日） ②2/9（日） ③2/16（日） ④3/2（日） ⑤3/9（日）
持ち物	エプロン 三角巾 筆記用具	体育館履き 水筒

# 2.実証内容と成果

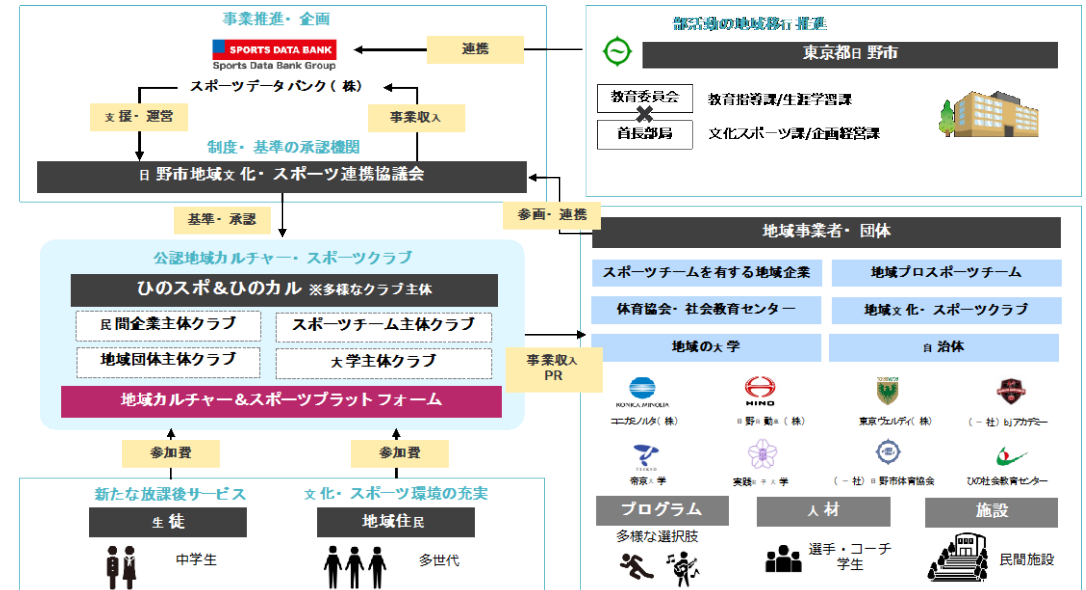


## 主な取組例

### ●日野市型地域移行モデル ひのカル！ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	料理／マジック教室
運営団体名	ひの社会教育センター／音辻せいや（個人）
期間と日数	種目ごとに設定
指導者の主な属性	民間指導団体
活動場所	学校体育施設、食堂等
主な移動手段	保護者の送迎、徒歩、公共交通機関
1人あたりの参加会費等（年額）	800円（税込み）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

### ●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 事業総括責任者（プロデューサー）
  - 事業推進にかかる監督・指揮、企画立案及び各種助言
- 統括責任者（ディレクター）
  - 事業進捗管理、制度構築、会議設置、企画提案・推進 等
- 事業主任担当者（コーディネーター）
  - 実証にかかる各種調整、人材確保、運営管理、会議サポート 等

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

協議会の法人化を目指し関係団体と協議を進めた。また、運営基準「ひのカル！コード」を策定、運用の準備を進めた。地域クラブの運営においては、コーディネーターを中心に、ひの社会教育センターと連携。また、地域の個人指導者を開拓した。以上の取組により、地域クラブの持続可能な運営体制の構築に向けた基盤整備を進めた。

##### 取組の成果

文化活動の運営主体として「ひの社会教育センター」と連携

- ・ 自主開催型（Ⅰ型）の「料理」1種目の実施において、実施準備から実行までを整備
- ・ 外部の既存プログラム紹介型（連携Ⅱ型）の連携先として、「ひの社会教育センター」の9プログラムを中学生向けに紹介することで調整  
地域の個人指導者の開拓と、不登校生徒の参加実績
- ・ 自主開催型（Ⅰ型）の「マジック教室」の実施では、近隣地域（八王子市）在住の個人指導者「音辻せいや」氏と連携。
- ・ 「マジック」というニーズの限定された種目での開催であったが、参加者には学校を不登校になっている生徒の参加が認められ、生徒の多様なニーズに応じた「居場所の創出」の実例となった。



##### 協議会での議論と成果

- ・ 「ひのスポ！」「ひのカル！」の基本方針と理念を策定した。
- ・ 指導者・指導団体の認証を行う「認証コード」の運用版を作成した。
- ・ 地域クラブ運営マニュアルの原案を整備した。
- ・ 収支の試算を実施し、受益者負担の引き上げを検討した。

##### 今後の課題と対応方針

統括団体の体制整備と継続的な指導者確保が課題である。地域企業や大学と連携し、運営団体の安定化を図るとともに、認証コードの実用化で質を確保する。また、自治体補助金と受益者負担の適正化を進め、持続可能な財政基盤を整える。さらに、企業版ふるさと納税や企業協賛、寄付制度を活用し、外部資金の確保を強化することで、安定した運営体制を確立する。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

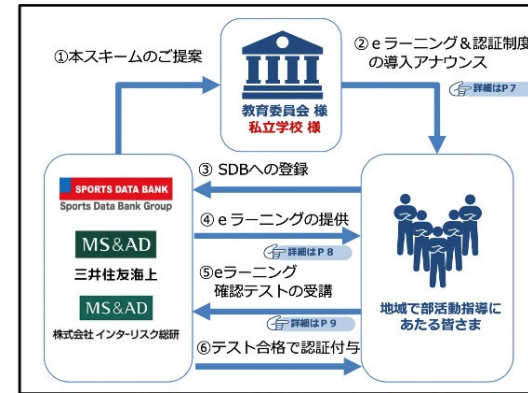
#### 取組事項

e-Learningを活用した指導者研修を拡充し、指導の質を向上させた。また、市内事業者と連携した「ひのカル！ひのカル！」連携Ⅱ型を拡充（日野社会教育センター、すばたま）し、生徒の体験機会を広げた。

#### 取組の成果

ひのカル！コード（認証制度）

認証項目	達成率	達成率	達成率
<b>A：事業理念への理解</b>			
1 ひのカル！ひのカル！の理念等を理解している	<input type="radio"/>	必須	達成
<b>B：指導者の管理体制</b>			
2 各地域クラブ活動に適切な指導者を有し、配置等の確保、運営が図られている	<input type="radio"/>	必須	達成
3 指導者のプロフィール情報を事前に開示することができている	<input type="radio"/>	必須	達成
4 管理団体と指導者の契約書を取り交わしている	<input type="radio"/>	必須	達成
<b>C：アセスメントの実施体制</b>			
5 各地域クラブ活動の実施において、経験の有無を問うて適切な指導者であるかどうかを確認している	<input type="radio"/>	必須	達成
6 各地域クラブ活動の実施計画を事前に開示し、実行、終了することになっている	<input type="radio"/>	必須	達成
<b>D：安全管理体制（1）</b>			
7 各地域クラブ活動の実施にあたり、緊急連絡に対応できる体制を整備している	<input type="radio"/>	必須	達成
8 緊急事態が発生した場合の対応法について、研修を実施している	<input type="radio"/>	必須	達成
9 指導団体として、危機管理に関するルール、規程を整備している	<input type="radio"/>	必須	達成
10 心身の発達に際する指導や、ハラスメントについての理解を促す研修をしている	<input type="radio"/>	必須	達成



指導者の知識向上による安全  
指導者の認証情報開示による安心



&

#### 研修項目

- 自然災害への対応
- 救急蘇生法
- 防犯
- コンプライアンスの重要性和ハラスメント防止
- 子どものメンタルヘルス不調と対応
- 個人情報の取り扱い
- ケガ予防（実地）

#### ロ e-Learningの画面イメージ

アバターによるナレーション付きで理解を促します  
スマートフォンからも受講可能です

#### e-Learning 研修制度

受講後は小テスト（10問）で理解を確認  
（例：一次救命措置と熱中症の小テスト 一部抜粋）

問1 あなたが次に行うべき行動はどれか？ひとつ選んでください。  
[a] 119番通報とAEDを依頼する。  
[b] 現場の安全確認を行う。  
[c] 峡谷圧迫を開始する。

認証制度による指導者の基準づくりと、コンプライアンス対応等を含む研修を組み合わせた、指導者の質の確保

### 今後の課題と対応方針

連携Ⅱ型の拡充が課題であり、指導者の確保と質の向上が不可欠となる。そのため、「ひのカル！コード」の運用強化を図り、適切な基準に基づいた指導者の育成を進める。また、地域事業者との連携を拡大し、次年度以降のプログラム提供を円滑に実施する。

指導者確保のための周知強化として、市公式ホームページやSNSで募集情報を発信するとともに、地域企業・大学・スポーツ団体への直接アプローチを行う。また、公民館や地域イベントでの説明会を検討し、潜在的な指導者の発掘を進める。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
**ウ：関係団体・分野との連携強化**  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

#### 取組事項

地域クラブの主体的な運営を推進するため、「ひのスポ！ひのカル！連携Ⅱ型」の拡充とモデル事業の実施に向け、地域ステークホルダーとの連携強化と募集を行った。また、企業・団体・大学等の参入メリット（学校施設の活用等）を整理し、持続可能な連携体制の構築を検討。これにより、地域資源を活用したクラブ活動の発展に向けた基盤整備を進めた。

#### 取組の成果

自主開催型（Ⅰ型）では、料理2名、マジック教室1名の指導者を確保し、連携先である「ひの社会教育センター」にて指導者ネットワークを活用した。連携Ⅱ型の実施により、外部団体が抱える指導者を取り込み、指導者の確保を進め、同センターの文化・スポーツ活動を含む幅広い指導者のプログラムを紹介し、生徒の活動機会を拡充した。

さらに、地域クラブの統括団体として、日野市、ひの社会教育センター、スポーツデータバンクの3者による「法人化」について議論を進めた。文化指導者ネットワークを持つひの社会教育センターと、スポーツ指導者ネットワークを持つスポーツデータバンクが連携に合意し、統括団体の「事務局機能」を2者で分担することに基本合意した。法人化の具体的なスキームの検討も進み、持続可能な地域クラブ運営体制の構築に向けた大きな進展を得た。



**連携** ひのスポ！ひのカル！連携プログラム  
 民間の団体が主催する文化・スポーツ活動のうち、日野市地域クラブ活動「ひのスポ（ひのカル）」の趣旨にあつたものと確認できたプログラムを、日野市立中学校生徒会に向けて紹介します。（令和6年6月29日実施）

**ひの社会教育センター**

<p><b>和</b>                  時間：毎週土曜日 17:00～18:30                  場所：多摩川文化センターホール TreeHALL (Tomonow PLAZA2階) / ひの社会教育センター</p>	<p><b>ちくちく手紙カフェ</b>                  時間：2024年6/23日、9/22日、2025年3/2日                  10:00～12:00                  場所：ひの社会教育センター ロビー</p>
<p><b>トランポリン</b>                  時間：毎週土曜または日曜日 11:20分                  12:00～12:30                  場所：平山公園、市民会館センター 体育館</p>	<p><b>北欧manabikカフェ</b>                  時間：2024年7/21日、9/8日、14:00～15:30                  9/11日、2025年11月、3月1日（祝祭日）                  場所：ひの社会教育センター</p>
<p><b>日曜ドラム</b>                  時間：【日曜日】 日曜日                  Aコース19:00～19:45                  Bコース19:00～19:00                  場所：ひの社会教育センター</p>	<p><b>中高生スポーツ</b>（中高生スポーツを真正に楽しむクラブ、練習くら）                  時間：月曜日 火曜日 19:10～20:30                  場所：高島体育館</p>
<p><b>自演（はくえい）先生の書道入門</b>                  時間：金曜日 18:00～19:30                  場所：ひの社会教育センター</p>	<p><b>けん玉指導</b>                  時間：毎週土曜日 14:00～16:00                  場所：ひの社会教育センター</p>
<p><b>字刺ヒラタイス</b>                  時間：月曜日 13:30～15:00 月曜日                  金曜日 13:30～15:00 月曜日                  場所：ひの社会教育センター TreeHALL (Tomonow PLAZA2階)</p>	<p>QRコード</p>

### 今後の課題と対応方針

文化活動における指導者やプログラムの選択肢が限定的であり、地域クラブへの参加機会が十分に確保されていない。また、地域の文化団体・教育機関・企業との連携が不足しており、持続可能な活動環境の構築が課題となっている。

ひの社会教育センターを中心に、地域の文化団体や大学、専門家と連

携し、音楽・演劇・美術・伝統文化など多様なプログラムを提供する。また、指導者の確保と育成を強化するため、e-Learning研修や認証制度を活用し、「ひのカル！コード」に基づいた質の高い指導体制を整備する。さらに、地域イベントでの発表機会を設け、地域住民との交流を促進し、文化活動の認知度向上と参加者拡大を図る。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
**エ：面的・広域的な取組**

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

##### 取組事項

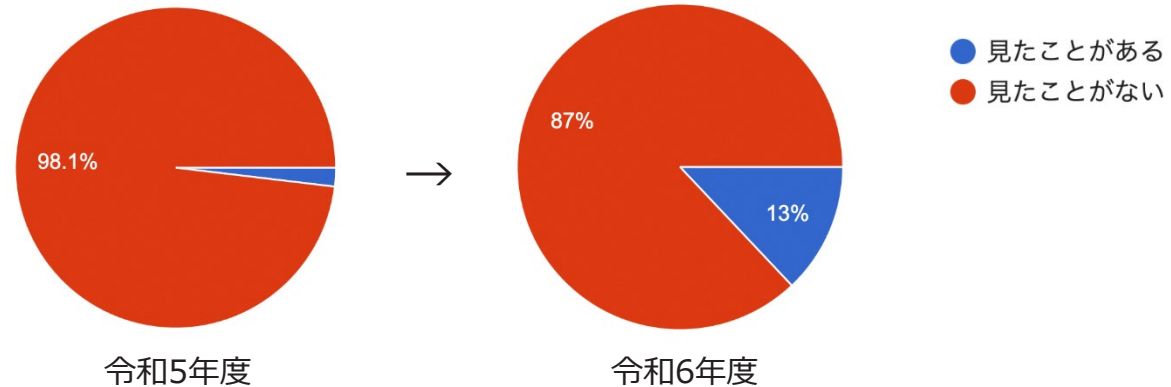
日野市の地域クラブ活動の現状を地域クラブ公式ホームページで発信し、周知を強化した。また、チラシ添付によるメール配信を通じて情報提供を行った。

日野市立学校の生徒向けに学習者用端末へ登録された「ひのスポ！ひのカル！」専用WEBページについて、令和5年度の実証終了後のアンケートでは、生徒の95%が認知しておらず、98%が閲覧したことがない状況であったが、令和6年度の同アンケートから、認知していない生徒が81.5%、閲覧したことがない生徒が87%と、それぞれ認知拡大の改善が見られた。

##### 取組の成果

【生徒向け実証後アンケート結果から】

学習者用端末にあるブックマークから、ひのスポ！ひのカル！WEBページを開いて、見たことがありますか



##### 今後の課題と対応方針

令和6年度の調査で認知度は向上したものの、依然として多くの生徒が「ひのスポ！ひのカル！」専用WEBページを認識・活用していない。情報発信の手段や効果的な周知方法のさらなる改善が求められる。学校との連携を強化し、学習者用端末の活用促進を

図る。また、SNSや動画コンテンツを活用し、生徒が興味を持ちやすい発信方法を検討する。さらに、授業や部活動の時間を活用した周知活動を実施し、認知度と利用率の向上を目指す。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実

##### 取組事項

令和5年度に実施した種目の継続に加え、生徒向けアンケートの結果を基に新たな種目を検討した。地域団体、地域の指導者と連携し、従来の学校部活動の枠にとらわれない多様な種目を体験・活動できる環境を整備する目的で、マジック教室を開催。これにより、生徒の多様なニーズに対応し、選択肢の拡充を図ることができた。

##### 取組の成果

新たな種目として、地域の指導者と連携してマジック教室を開催した。本教室には不登校の生徒も参加し、学校以外の学びの場としての役割を果たした。マジックは単なる手品の披露ではなく、「観客がいて初めて成立するショーパフォーマンス」としての要素を重視。生徒は、技を磨くだけでなく、観客の反応を引き出すための話し方や動作、見せ方を学び、自然なコミュニケーション力を身につける機会となった。また、初対面の観客に向けて発表する経験を通じ、人前での表現力向上や自己肯定感の育成にもつながった。地域の指導者と連携したことで、学校では学べない実践的な学びを提供し、生徒の多様なニーズに応える教育的意義のある地域クラブを実現した。



##### 今後の課題と対応方針

マジック教室は定員20名に対し6名の応募にとどまり、認知度や興味喚起が不足している。また、「マジック教室」という名称では、手品の披露にとどまらず、コミュニケーション力を育成するプログラムであることが十分に伝わらない。今後は、学校や地域イベントでの体験会を実施し、興味を持つ生徒を増やす。また、「ショーパフォーマンス体験」など、内容をより明確に伝える名称へ変更を検討する。さらに、参加者の声や実演動画を活用した広報活動を強化し、関心を高める。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

##### 取組事項

令和5年度後期より、800円（保険料相当）の参加費を徴収開始し、令和6年度も引き続き同設定での受益者負担を継続した。一方で、所得格差による機会損失を防ぐため、就学援助世帯の参加費免除については、令和5年度の「ひのスポ！ひのカル！」連携Ⅱ型を対象とした奨学金に加え、Ⅰ型の参加費800円も対象とした。奨学金の利用者は、Ⅰ型が定員50名に対して16名、連携Ⅱ型が定員10名に対して0名と、利用率は低く、制度の周知方法などについて課題が残った。新たな財源確保の手法としては、企業版ふるさと納税の寄付制度整備について議論を進め、外部資金の活用を目指した。

##### 取組の成果

奨学金制度の拡充と一定数の利用者確保  
令和5年度の「ひのスポ！ひのカル！」奨学金制度では、連携Ⅱ型（既存プログラム紹介型）に加え、自主開催型（Ⅰ型）の800円参加費も免除対象とした。その結果、Ⅰ型では50名定員に対し16名が利用し、一定の支援効果が見られた。

##### 奨学金の利用率における課題の発見

Ⅰ型と連携Ⅱ型で利用率に大きな差が生じ、特に連携Ⅱ型では利用者がゼロであった。制度の周知方法や、連携Ⅱ型の利用者層における経済的支援のニーズについて検証が必要と判断された。

##### 今後の課題と対応方針

##### 奨学金制度の改善

Ⅰ型の奨学金利用者は一定数いたが、連携Ⅱ型では利用者がゼロであり、背景の分析が必要である。利用者層のニーズを把握するためのアンケート調査を実施し、経済的支援が必要な層へのアプローチを強化する。また、学校や地域団体と連携し、制度の周知方法を見直し、保護者向け説明会やデジタル媒体を活用した広報活動を強化する。



#### 令和6年度 ひのスポ！ひのカル！奨学金のお知らせ

日野市教育委員会では、「ひのスポ！ひのカル！」に参加するための費用の一部を、福祉団体奨学金「ひのスポ！ひのカル！奨学金」として支給します。

◆奨学金支給対象者 (1)就学援助制度受給世帯 (2)令和6年度に日野市立小学校および中学校に通う生徒 ※(1)(2)いずれも該当する生徒	◆奨学金申請期間 令和6年5月24日 ～令和7年2月28日 ※遅くとも、申請期間終了まで、お早めに申し込みください。	◆奨学金利用期間 Ⅰ型奨学金：令和6年5月24日 ～令和7年3月31日 Ⅱ型奨学金：令和6年6月20日 ～令和7年3月31日
--	---	--

<b>Ⅰ型奨学金</b>  対象プログラム：日野市教育委員会が運営する「ひのスポ！ひのカル！」各プログラム 支給対象者：令和6年度に日野市立小学校および中学校に通う生徒 支給額：800円（参加費用として徴収する保険代に充当されます） 定員：50人まで	<b>Ⅱ型奨学金</b> <b>連携</b>  対象プログラム：民間団体が運営・提供する「ひのスポ！ひのカル！」各プログラム 支給対象者：令和6年度に日野市立中学校に通う生徒 支給額：最大7,000円（月額上限7,000円×10ヶ月分） 定員：10人（利用状況により、追加募集あり） ※実施は、定員枠が満了するまでとなります。
◆奨学金申請方法 ※奨学金の利用申請は、「Ⅰ型奨学金 800円」および「Ⅱ型奨学金 最大7万円」それぞれ専用のフォームでの申請となります。 ※奨学金のお申し込みから利用までの流れの詳細は、HPをご覧ください。	◆ひのスポ！ひのカル！奨学金HP <a href="https://sites.google.com/ed-hino.jp/hinospo-hinocul/scholarship/">https://sites.google.com/ed-hino.jp/hinospo-hinocul/scholarship/</a> ◆お問い合わせ先 事務局(スポーツマーケティング株式会社) メール: coupon-hino@sdb-group.co.jp

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
**キ：学校施設の活用等**  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 キ：学校施設の活用等

##### 取組事項

学校施設の有効活用を進め、体育施設に限らず食堂などの活用により活動場所を拡充した。また、地域クラブ活動のための学校施設の優先利用や使用料減免の仕組みについて検討を実施。さらに、連携Ⅱ型（外部

プログラム紹介型）を拡充し、外部団体が使用する施設での活動を展開することで、学校以外の施設の有効活用を推進した。これにより、生徒が多様な環境で活動できる体制を整備した。

##### 取組の成果

学校施設の有効活用を進め、体育施設に限らず食堂の活用を拡充した。すでに「けん玉」で利用していた市内中学校の食堂については、昨年度、調査を実施し、校舎との導線およびセキュリティの切り分け工事を完了。今年度は、新たに「マジック教室」を「けん玉」と同じ曜日・時間帯で開催し、施設の管理効率と利用率を向上させた。さらに、二次的な成果として、「けん玉」と「マジック教室」の指導者同士が自主的に交流し、最終日には合同で成果発表会を開催するなど、相互連携の促進につながった。



##### 今後の課題と対応方針

食堂の活用や同時開催により利用効率は向上したが、活用可能な学校施設は限定的であり、さらなる拡充が課題となる。また、異なる種目の指導者同士の交流が生まれたものの、継続的な連携体制の確立には至っていない。今後は、他の学校施設の利活用可能性を調査し、導線・

セキュリティ対策を含めた環境整備を進める。さらに、異分野の指導者が連携しやすい仕組みを整備し、合同イベントの定期開催や共同プログラムの開発を推進する。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

本年度は、地域クラブ活動の持続可能な運営に向け、学校施設の有効活用、指導者の確保・育成、経済的支援の拡充、地域団体との連携強化に取り組んだ。特に、体育施設以外の活用として食堂を利用し、「けん玉」と「マジック教室」を同時開催することで、施設の管理効率向上と利用率の改善を実現した。指導者の確保・育成では、e-Learning研修の拡充や「ひのカル！コード」に基づく認証制度の運用を進め、指導の質向上を図った。また、奨学金制度の拡充によりI型の参加費免除対象を広げたが、連携II型での利用者がゼロであり、周知不足や経済的支援ニーズの違いが課題として残った。さらに、企業版ふるさと納税の活用についても具体的な議論が進み、外部資金の確保に向けた基盤整備が進展した。一方で、広報活動の強化が必要であり、専用WEBページの認知度は向上したものの依然として閲覧率が低く、より効果的な周知方法の模索が求められる。今後は、学校や地域団体との連携を深め、多様な活動の選択肢を提供し、より多くの生徒が参加できる環境を整備する必要がある。

#### ●成果の評価

本年度の成果として、学校施設の有効活用が進み、体育施設に加え、食堂を活用した「けん玉」と「マジック教室」の同時開催により、管理効率と利用率の向上を実現した。さらに、指導者同士の交流が生まれ、合同成果発表会の開催につながった。指導者の確保・育成では、e-Learning研修の拡充や「ひのカル！コード」の運用により、指導の質向上が図られた。一方、奨学金制度の利用率には課題があり、I型では16名が利用したが、連携II型はゼロであり、支援の必要性や周知方法の改善が求められる。また、企業版ふるさと納税の活用に向けた議論が進展し、財源確保の基盤が整った。広報活動では、専用WEBページの閲覧率が向上したものの、依然として多くの生徒が認知していないため、より効果的な情報発信が必要である。

#### ●今後に向けて

今後は、学校施設のさらなる活用可能性を調査し、食堂や多目的室の利用拡大を進める。また、異分野の指導者連携を強化し、合同イベントや共同プログラムの定期開催を推進する。奨学金制度の利用促進のため、学校や地域団体との連携を強化し、説明会やデジタル広報を活用した周知活動を展開する。財源確保の面では、企業版ふるさと納税の寄付制度を整備し、地域クラブ活動を支える外部資金の活用を本格化させる。これらの取り組みを通じ、より多くの生徒が地域クラブ活動に参加できる環境を整えていく。

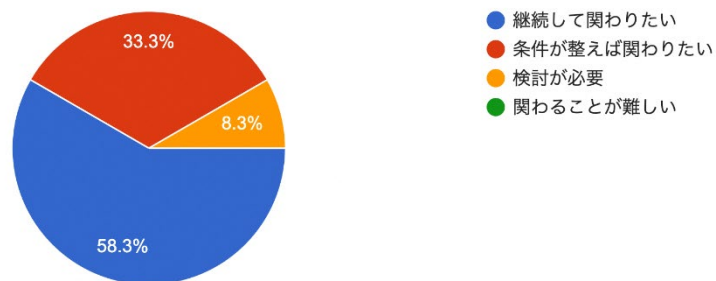
## アンケート結果・参加者の声

### ●アンケート結果

#### 指導者向け

今後のひのスポ！ひのカル！への関わりについて教えてください

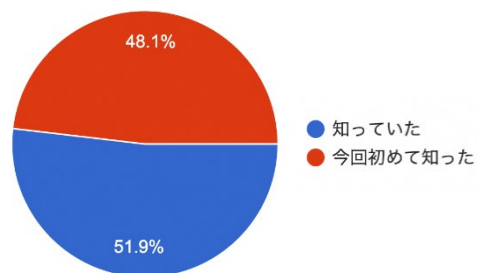
12件の回答



#### 生徒向け

「ひのスポ！ひのカル！」のことを知っていましたか

54件の回答



### ●ステークホルダーの声

#### 指導者

参加者が回を重ねるごとに積極的になり、他校の生徒とのコミュニケーションが増えた。指導を通じて、生徒が上達していく姿を見ることができ、やりがいを感じる。

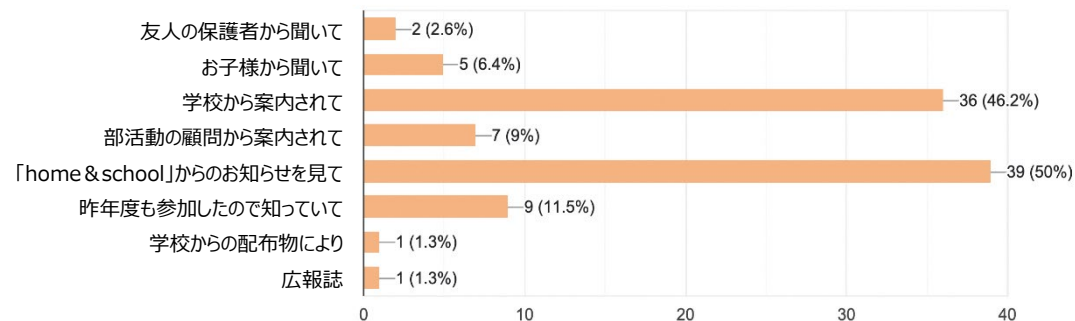
#### 保護者

指導者の質が高まれば、子どものやる気にもつながると考えている。文化系の活動も充実させてほしい。まだまだ運動部中心の印象がある。

#### 保護者向け

参加したひのスポ！ひのカル！を知ったきっかけを教えてください（複数選択可）

78件の回答

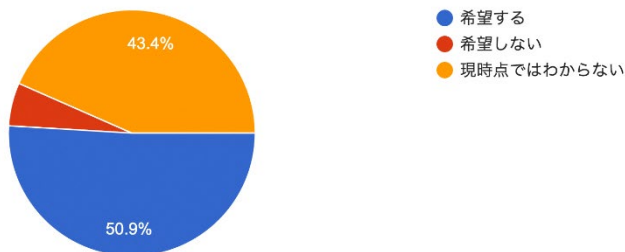


## アンケート結果・広報資料

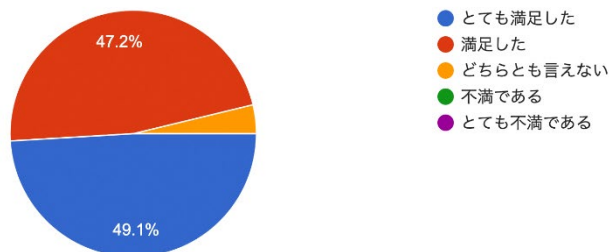
### 生徒向け実証後アンケート結果の前年度との比較

#### 令和5年度

今後も、ひのスポ！ひのカル！への参加を希望しますか  
53件の回答



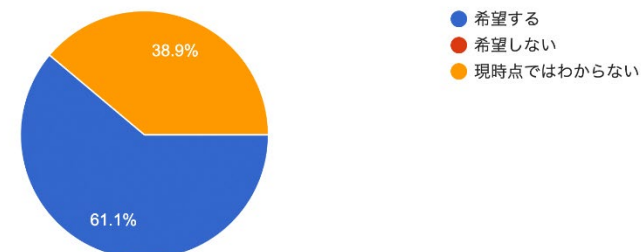
ひのスポ！ひのカル！の全体的な満足度を教えてください  
53件の回答



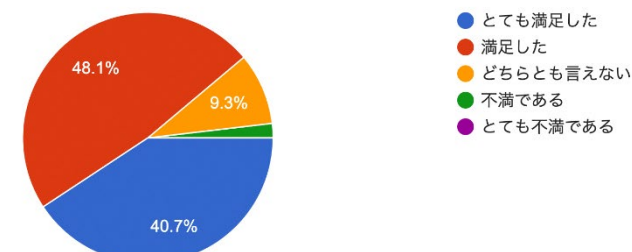
出典:【生徒様用】R5年度「ひのスポ！ひのカル！」終了後アンケート調査

#### 令和6年度

今後も、ひのスポ！ひのカル！への参加を希望しますか  
54件の回答



ひのスポ！ひのカル！の全体的な満足度を教えてください  
54件の回答



出典:【生徒様用】R6年度「ひのスポ！ひのカル！」終了後アンケート調査

## 2.実証内容と成果④

### 参考資料（活動写真）



ひのカル！料理



ひのカル！マジック教室



ひのカル！料理



ひのカル！マジック教室

## 地域文化クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

### 令和4年

関係者ヒアリング、調整

協議会設置、地域クラブ活動検討開始

### 令和5年

学校現場との拠点校調整

ひのカル！実施、受益者負担開始、奨学金導入実証

### 令和6年

種目の拡充

推進計画の策定、運営団体の法人化検討

#### 1. ステークホルダー

- 行政：日野市教育委員会
- 実施機関：スポーツデータバンク株式会社
- 学校関係者：市内中学校の校長会、教員
- 地域団体：地域の文化・スポーツ団体
- 保護者・生徒：直接の参加者・利用者

#### 2. 経過

- 協議会発足：地域クラブ活動の必要性を認識し、関係者との協議開始。

#### 3. 実施にあたって生じた課題

- 学校との調整：従来の部活動との役割分担や協力体制の構築に時間がかかった。
- 指導者の確保：地域クラブに適した指導者の確保。
- 保護者の理解：新しい仕組みへの理解促進が必要。
- 拠点会場の確保：セキュリティ管理が環境として整った学校施設の確保が物理的にこんな五。
- 用具類置場の確保：学校施設内に保管されている用具を地域クラブ活動時に共有使用する際に、会場への用具移動が困難。

#### 4. 実施内容・工夫した点

- 関係団体との連携強化：スポーツ・文化団体と協力し、持続可能な運営モデルを模索。

#### 1. ステークホルダー

- 令和4年度と同じ（ただし、協議会が本格的に機能し、関係者が増加）

#### 2. 経過

- ひのカル！2種目実施。
- 奨学金制度の検討・実施：低所得層への支援策を検討し、受益者負担の軽減を模索。
- 連携プログラム開始：地域団体との協働を強化し、参加者の選択肢を拡充。

#### 3. 実施にあたって生じた課題

- 運営の持続可能性：事業の拡大に伴い、安定した運営資金の確保が課題。
- 指導者の質の向上：多様な活動を支える指導者の質を維持する必要性。
- 利用者の拡大：知名度向上が必要であり、参加者を増やすためのプロモーションが求められる。

#### 4. 実施内容・工夫した点

- 奨学金制度の導入：一部の生徒に補助を提供し、経済的な障壁を下げる。
- 活動時間の調整：学校部活動と調整しながら、円滑な運営を実現。
- 拠点会場の確保のため、学校施設のセキュリティ工事を検討。工事予定会場を実証で使用。
- 関係者の協力促進：企業版ふるさと納税の活用可能性を探り、資金確保策を検討。

#### 1. ステークホルダー

- 令和5年度と同じ

#### 2. 経過

- 3種目に拡大：さらに種目数を増やし、多様なニーズに対応。
- 奨学金制度の拡充：支給対象を増やし、より多くの生徒が活動できるよう調整。

#### 3. 実施にあたって生じた課題

- 運営体制の確立：法人化による統括組織の立ち上げと役割分担の整理が必要。
- 費用負担の見直し：持続可能な財源確保のため、参加費の引き上げが検討される。
- 地域団体の協力体制：さらなる地域クラブの発展には、より多くの関係団体との連携が不可欠。

#### 4. 実施内容・工夫した点

- 拠点会場確保のため、学校施設のセキュリティ工事を実施。学校管理外の動きが取れた地域クラブ活動を実施することができた。
- 受益者負担の引き上げ：運営の持続可能性を高めるため、月会費制度の導入を検討。
- 企業版ふるさと納税の活用検討：令和7年度税制改正を踏まえ、企業からの寄付の活用準備を進め、新たな財源確保を目指す。
- 公式LINEの活用検討：情報発信の効率化、支払いリマインドの強化、問い合わせ対応の負担軽減を模索。

# 3. 今後の方向性



## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	令和5年度(実績)	令和6年度(実績)	令和7年度(予定)
学校部活動	維持・継続	維持・継続 (任意化の検討・一部実施)	休養日の拡大
I型	市内中学校8校 (学校体育施設)	市内中学校8校 (学校体育施設・食堂等)	市内中学校8校 (学校体育施設・食堂等)
II型	市内9プログラム	市内18プログラム	市内30プログラム程度
受益者負担	I型：保険料相当分 II型：保険料+参加費	I型：保険料相当分 II型：保険料+参加費	I型：年会費(保険料)+月会費 II型：保険料+参加費
低所得者対応	バウチャー実証事業 (「未来の教室」実証事業)	ひのスポ！ひのカル！奨学金実施 (市事業)	ひのスポ！ひのカル！奨学金 <b>拡充</b> (市事業)
運営主体	日野市教育委員会	日野市教育委員会	統括団体(法人設立)

### プログラム

- II型(地域事業者活用)プログラムの拡充 : 連携事業者の基準づくり
- 事業周知の拡大(生徒・保護者・地域事業者) : 学校部活動の改革(教員の働き方改革)との連動

### 受益者負担

- 参加費(II型は事業者が設定)の徴収 : 市側での費用徴収は困難
- 低所得者対象のバウチャー配布の実施 : 利用プログラムの拡充
- 企業版ふるさと納税等の寄付を活用 : 寄附の受入れ体制と運用方法の構築

### 運営主体

- 主体を教育委員会から統括団体(法人)へ移行 : 協議会の法人化
- ※教育委員会主体の運営は、運営管理・予算執行など運営上において不確定要素が多くなるため不向き

令和6年度

# 文化庁活動改革（部活動の地域に向けた実証事業等）

地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業

## 東京都狛江市

自治体名： 東京都狛江市  
担当課名： 教育部指導室指導教職員係  
電話番号： 03-3430-1111

## 基本情報

面積	6.39 km <sup>2</sup>
人口	82,102 人
公立中学校数	4 校
公立中学校生徒数	1,409 人
部活動数	44 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

令和5年1月より、部活動の地域移行に関する検討委員会を設置し、主に運動部活動を対象に協議を進めてきた。令和6年からは「連絡協議会」と名称を改め、引き続き検討を推進する方針である。

また、部活動ガイドラインについては、従来運動部の基準に準じていた文化部の基準を統一し、休養日の設定などを明確化した。令和5年度には、スポーツ庁の実証事業を活用し、運動部活動の地域クラブ運営に関する知見を得ることができた。この成果を踏まえ、今後は文化部活動の円滑な地域移行を進めることが課題となる。

令和8年度以降は、市内すべての中学校において、休日の部活動が地域クラブとして運営されることを目標としており、引き続き関係機関と連携しながら、地域移行の推進を図る。

○狛江市立中学校数（令和6年度）  
4校

○狛江市立中学校生徒数（令和6年9月現在）  
1,409人

○部活動総数（令和6年度）  
44部活（内訳：運動部活動29／文化部活動15）

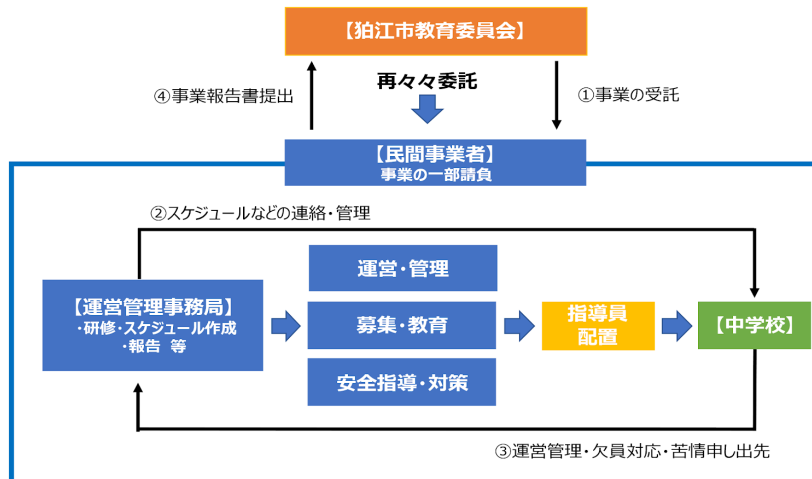
○入部生徒数（令和6年8月現在）  
1,215人（内訳：運動部活動767人／文化部活動448）  
※入部生徒の割合 86.2%

○部活動指導員数（令和6年12月現在）  
11人（内訳：運動部活動7人／文化部活動4人）

○技術指導員数（令和6年12月現在）  
37人（内訳：運動部活動19人／文化部活動18人）

## 運営体制・役割

### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



### ●行政組織内での役割分担

#### ◎教育委員会

本事業の主管課・方針の決定

#### ◎首長部局

教育委員会との連携・財源確保・条例等の見直し

## 年間の事業スケジュール

令和6年

9月：委託事業契約開始、事業計画の詳細調整、関係機関との協議開始

10月：吹奏楽の指導者と調整開始、施設利用の確定、対象生徒の募集・保護者説明会

11月：モデル実証開始（吹奏楽部での試行）、活動状況の記録・課題整理

12月：モデル実証終了、成果の初期評価、指導者・関係者ヒアリング実施

令和7年

1月：アンケート回収・分析、参加生徒・保護者・指導者の意見集約

2月：報告書提出、次年度の本格実施に向けた計画策定・関係者協議

## 2.実証内容と成果

### 地域文化クラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	4校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ（1部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	3人	全体の運営スタッフ数	3人

#### ②各クラブに関すること

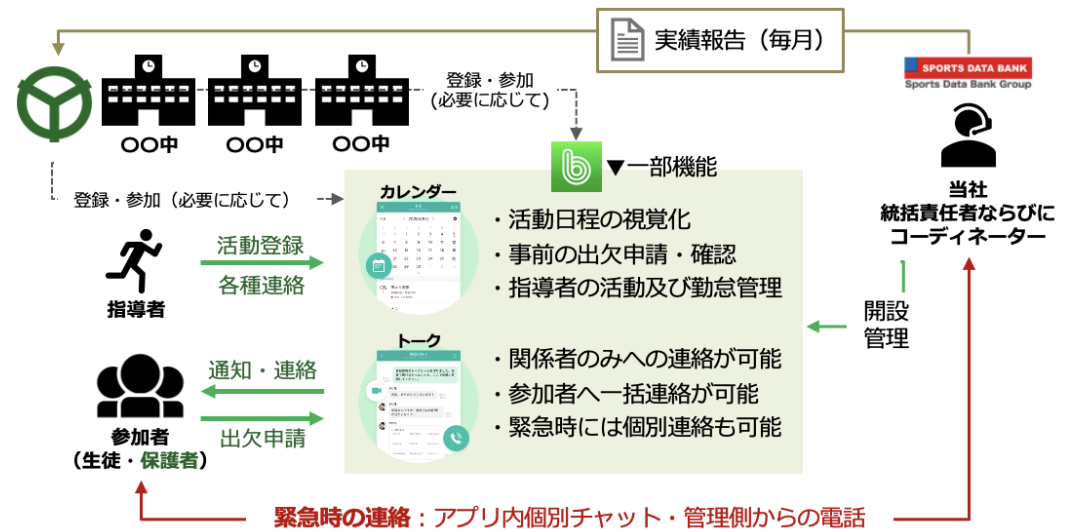
種目	参加生徒数	登録指導者数	実施回数（11月）	実施回数（12月）	実施回数（1月）
吹奏楽	30	3	5	4	0
合計	30	3	5	4	0

## 主な取組例

### ● 狛江市地域クラブ活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	吹奏楽
運営団体名	狛江市地域クラブ
期間と日数	計9回 令和6年11月～12月（2ヶ月間）
指導者の主な属性	部活動の外部指導員 兼職兼業の教職員
活動場所	狛江第四中学校
主な移動手段	徒歩、公共交通機関、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

### ● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



### ● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

事業総括責任者（プロデューサー）

事業推進にかかる監督・指揮、企画立案及び各種助言

統括責任者（ディレクター）

事業進捗管理、制度構築、会議設置、企画提案・推進 等

事業主任担当者（コーディネーター）

実証にかかる各種調整、人材確保、運営管理、会議サポート 等

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

#### 取組事項

本年度は、地域移行の運営体制の整備を進め、持続可能な組織づくりに取り組んだ。狛江市立中学校の部活動等推進連絡協議会を設立し、指導者確保や費用負担の課題を整理。特に、公的負担に関する要望や意見をもとに、これまでの教員の業務負担も踏まえながら、受益者負担をどのように考えていくか検討した。

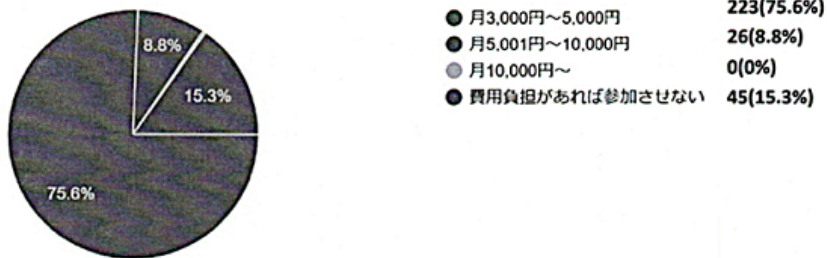
#### 取組の成果

【保護者向けアンケートの回答より抜粋】

設問より

Q12.国は、中学校の部活動について、休日の部活動から地域に移行していくことを示しています。休日の部活動が地域の活動に移行し、その活動にお子様に参加する場合、新たに活動費（指導者謝金等）の負担が保護者に生じることも考えられます。お子様の休日の地域の活動への参加（月に5回程度）と、保護者が負担する活動費との?関係について、どのようにお考えですか。

295件の回答



【出典】第2回協議会資料「(3)学校部活動に関する意識調査の結果報告について」

#### 今後の課題と対応方針

保護者アンケートの結果、75%が月3,000～5,000円の負担を許容する一方で、15%は費用負担があれば参加させないと回答した。これにより、受益者負担の設定が参加率に影響を及ぼす可能性が示唆された。今後の課題として、経済的負担が障壁となり、部活動への参加機会が制限されない仕組みの整備が必要となる。対応策として、市や企業との協力による補助制度の検討、低所得世帯向けの支援策、活動費の分割払い制度の導入などを検討。また、地域クラブと連携し、費用対効果の高い運営方法を模索しつつ、保護者への説明を充実させることで、持続可能な運営を目指す。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

オ：内容の充実

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

カ：参加費用負担の支援等

ウ：関係団体・分野との連携強化

キ：学校施設の活用等

エ：面的・広域的な取組

ク：その他の取組



## 取組内容

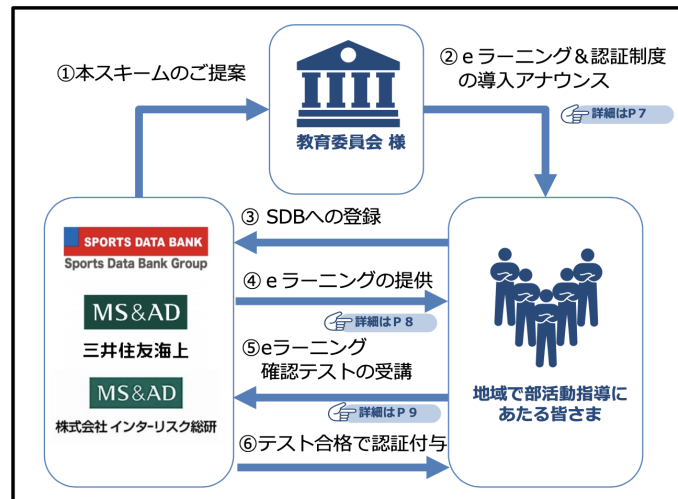
### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

#### 取組事項

令和6年度は、指導者の確保と資質向上を目的に、民間事業者との連携を強化し、研修を実施した。指導者同士の相互参観や研修機会を設け、指導スキルの向上を図った。指導方針の共有を徹底し、継続的な指導が可能となる体制を構築した。今後も質の高い指導環境の確立を目指す。

#### 取組の成果

#### e-Learning研修制度



- 指導者の知識向上による安全
- 指導者の認証情報開示による安心



#### 今後の課題と対応方針

Eラーニング研修制度（①自然災害への対応 ②救急蘇生法 ③防犯 ④コンプライアンスの重要性とハラスメント防止 ⑤メンタルヘルス不調と対応 ⑥個人情報取り扱い）の導入により、指導者の質向上と育成の効率化が進んだが、いくつかの課題が残る。まず、受講者の学習状況や理解度の把握が難しく、研修の効果検証が必要である。次に、実践的な指導スキルの習得には対面指導との併用が不可欠であり、補完的なワークショップの開催が求められる。さらに、受講環境の整備や指導者の受講意欲の向上も課題となる。今後は、受講後の実地研修の導入やフィードバック体制の強化を進め、指導者の質向上を図る。また、受講データを活用し個別フォローを実施する仕組みを構築し、研修制度の定着を目指す。

### 指導者の質の確保

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

オ：内容の充実

イ：指導者の質の保障・量の確保

カ：参加費用負担の支援等

**ウ：関係団体・分野との連携強化**

キ：学校施設の活用等

工：面的・広域的な取組

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

##### 取組事項

令和6年度は、学校・保護者・関係団体との連携強化を進めるため、狛江市立中学校の部活動等推進連絡協議会を設立し、継続的な協議を実施した。校長会やPTA関係者の参画のもと、地域移行における課題や運営スキームの検討を深化。特に、文化部活動の地域移行に関する具体的な課題整理を進め、地域連携の枠組みづくりに向けた協議を推進した。今後も関係団体と協力し、持続可能な運営体制の確立を目指す。

##### 取組の成果

部活動等推進連絡協議会は、令和5年度及び令和6年度に設置されていた狛江市立学校の部活動の地域移行に関する検討委員会による「狛江市立学校における休日の部活動に関する地域移行の導入に関する検討結果について(答申)」を継承し、令和6年10月17日に発足し、計3回にわたって次の内容について協議を行った。

##### 【第1回会議】

日時：令和6年10月17日  
(木)15:30~16:50  
場所：狛江第三中学校会議室

##### <説明>

- 国や東京都の動向について
- 狛江市立中学校の部活動の現状と課題
- 狛江市のこれまでの取り組み
- 今年度の会議予定
- 令和6年度部活動の地域移行等に向けた実証事業実施委託について
- アンケートの実施について

##### <協議>

- 部活動の合同化や拠点校化について

##### 【第2回会議】

日時：令和6年11月27日  
(水)15:30~16:50  
場所：狛江市防災センター402・403  
会議室

##### <説明>

- 部活動の実証事業の状況について
- 学校部活動に関する意識調査の結果報告について
- ◎地域クラブ、行政主導地域クラブ、合同チーム・拠点校方式の比較

##### <協議>

- 部活動の合同化・拠点校化の方向性や留意事項について
- 公的負担、受益者負担の考え方

##### 【第3回会議】

日時：令和7年2月3日  
(水)15:30~16:50  
場所：狛江市防災センター302・303  
会議室

##### <説明>

- 本協議会からの報告書について
- 部活動の実証事業の状況について

##### <協議>

- 本協議会からの報告書について
- 次年度以降の本協議会開催について

##### 今後の課題と対応方針

部活動等推進連絡協議会は、狛江市の部活動地域移行に向け、幾つかの課題を以下のとおりまとめた。

1. 拠点校化や合同部活動・合同チーム等の地域連携から段階的に取り組んでいく。
2. 地域連携に向け、学校間の連携や部員数増加に対応するために、部活動指導員配置の増員。
3. 生徒・保護者への説明を丁寧に行い理解の促進を図り、生徒・学校・教育委員会間の連携に努めていく。
4. 学校間移動の際の、安全管理の徹底。
5. 教員負担減と共に、顧問を担いたい教員の思いを汲み取り、兼務制度の導入。
6. 費用負担軽減のため、既存の制度との連携や、新たな行政の財政支援策の検討。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

**エ：面的・広域的な取組**

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

##### 取組事項

令和6年度は、市内全中学校への取り組みの共有を進めるため、モデル校での実証事業を実施。その成果や課題を部活動等推進連絡協議会を通じて各校に共有し、共通理解を深めた。特に、市内全中学校に設置されている吹奏楽部を対象に、地域移行の課題や運営方法について協議を実施。今後の展開に向け、広域的な取り組みの基盤を整備した。

##### 取組の成果



吹奏楽部の地域クラブ化の実証事業では、兼職兼業の指導者2名と一般指導者1名を配置し、地域楽団との連携を実施した。これにより、専門的な指導を受ける機会が増え、演奏技術の向上が見られた。また、9回の活動を通じて、生徒の主体的な参加が促進され、演奏意欲が向上した。12月にはウィンターコンサートを開催し、地域との交流を深める機会を提供できた。さらに、地域楽団との協力により、新たな演奏機会の創出や継続的な活動の基盤が築かれた。この実証を通じて、地域クラブとしての可能性や課題が明確になり、今後の持続的な運営に向けた方向性が示された。

##### 今後の課題と対応方針

地域楽団や民間クラブとの連携には、目的やスケジュール調整の難しさが課題として浮上した。特に、指導者の勤務形態や地域団体の活動日程との調整が必要であり、円滑な連携には計画的な調整プロセスの確立が求められる。また、持続可能な協力関係を築くためには、明確な役割分担や指導方針の統一が不可欠である。今後は、定期的な連絡会の開催や、年間計画の共有による連携強化を図る。さらに、指導者の確保・育成を進め、地域楽団との共同運営のモデルを構築することで、安定した運営基盤を整備していく。

# 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 オ：内容の充実

#### 取組事項

令和6年度は、生徒が楽しみながら文化活動に親しめる環境を整備するため、実証事業の前後で生徒・保護者を対象にアンケートを実施した。これにより、部活動や地域部活動に対するニーズや課題を把握し、今後の施策検討の基礎資料を収集。生徒の志向に応じた充実した活動機会の提供に向け、具体的な方策を検討するための基盤を整えた。

● とてもよいと思う  
 ● よいと思う  
 ● あまりよくないと思う  
 ● よくないと思う

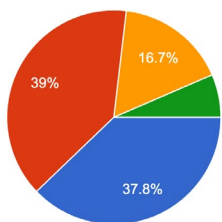
#### 取組の成果

○部活動や習いごと等に望むことはどんなことですか。

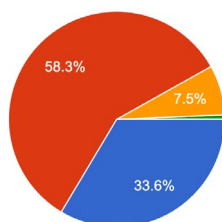
	望むこと	回答	望むこと	回答
中学校生徒の回答	1 楽しく活動する	89.8%	4 体力をつける	43.3%
	2 技術を高める	66.7%	5 興味の幅を広げる	42.0%
	3 大会やコンクールで勝つ	56.3%	6 友だちを増やす	36.5%
中学校保護者の回答	1 楽しく活動する	95.9%	4 体力をつける	54.9%
	2 興味の幅を広げる	64.7%	5 精神力をつける	54.6%
	3 友だちを増やす	55.9%	6 技術を高める	49.8%

○部活動の地域移行が進むと、他校と一緒に活動する機会が増えることが予想されます。近くの学校や市内の中学校と一緒に活動することについて、どう思いますか。

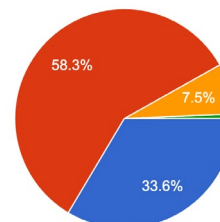
	とてもよいと思う	よいと思う	あまりよくないと思う	よくないと思う
中学校生徒の回答	37.8%	39.0%	16.7%	6.5%
中学校保護者の回答	33.6%	58.3%	7.5%	0.7%
中学校教職員の回答	37.7%	45.3%	13.2%	3.8%



生徒



保護者



教職員

【出典】学校部活動に関する意識調査（生徒用、保護者用、教職員用）

#### 今後の課題と対応方針

生徒・保護者ともに「楽しく活動する」ことを重視しつつ、技術向上や交友関係の拡大も求めていることが明らかになった。また、他校との合同活動に対する肯定的な意見が多く、特に保護者の賛同率が高いことから、拠点校化・合同部活動の導入を優先して検討する。一方で、文化部の特性上、活動方針の違いや指導者間の調整、楽器や施設の共有といった課題がある。特に、合同活動の頻度や形式を明確にしなければ、生徒の負担増加やモチベーション低下を招く可能性がある。今後は、複数校の生徒が継続的に参加できる環境を整えるとともに、指導者間の連携強化を図る。また、合同練習や合同発表会を定期的に実施し、技術向上と交流の機会を提供することで、持続可能な文化部の地域移行を推進する。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

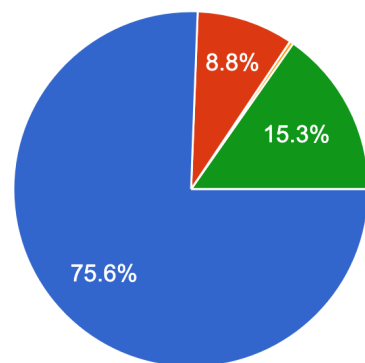
##### 取組事項

令和6年度は、保護者の費用負担に関する調査を実施し、既存の部活動における活動経費との比較や管理方法の検討を進めた。また、実証事業では参加費を徴収せず、市予算で消耗品費を計上しながら検証を実施。今後の地域移行に向け、楽器購入や修繕費など、受益者負担のあり方について具体的な方針を検討していく。

##### 取組の成果

【保護者アンケートから】

お子様の休日の地域の活動への参加（月に5回程度）と、保護者が負担する活動費との関係について、どのようにお考えですか。



- 月3,000円～5,000円
- 月5,001円～10,000円
- 月10,000円～
- 費用負担があれば参加させない

【保護者アンケート「自由記述」から】

経済的負担に対する懸念	公平性の確保と費用負担のバランス	受益者負担の適正化と今後の検討事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 部活動が地域移行すると、習い事と変わらなくなり、追加費用の発生に不安を感じるとの意見があった。</li> <li>● 「プロの指導を受けられることは良いが、経済的負担が増えるため、援助が必要」との声も多い</li> <li>● 「遠征費など、部費以外の高額な費用負担が減少することが望ましい」という意見が挙がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「部活動は義務教育の一環であり、学校予算の中で運営すべき」との意見があった。</li> <li>● 「費用を徴収するのであれば、すべての生徒が平等に参加できる環境を整えるべき」との意見も多く、受益者負担と教育機会の公平性のバランスが課題となっている。</li> <li>● 「指導者によって活動の質や方針が異なり、経済的負担を伴う以上、一定の基準を設けるべき」との指摘があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経済的理由で部活動に参加できない生徒を支援する制度の導入が求められており、助成制度や分割払いの選択肢を検討すべきとの意見が挙がった。</li> <li>● 受益者負担の仕組みを明確化し、適切な負担額とその用途を保護者に説明することが、今後の運営において重要となる。</li> <li>● 道具や備品の貸与制度の導入や、費用を抑えつつ活動の充実を図る工夫も求められている。</li> </ul>

##### 今後の課題と対応方針

アンケート結果では、75%が月3,000～5,000円を許容する一方、15%は費用負担があれば参加させないと回答し、受益者負担が参加率に影響する可能性が示された。また、経済状況による格差や道具・備品費の負担、指導員の質の確保も課題となっている。今後、公的支援や補助制度、低所得世帯向け支援の検討を進め、経済的負担を軽減しつつ持続可能な運営を目指す。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

**キ：学校施設の活用等**

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 キ：学校施設の活用等

##### 取組事項

令和6年度は、部活動の地域移行に伴う活動場所の確保に向け、学校施設の利用方法やルールを検討を進めた。民間事業者が学校施設を使用する際の設備・備品の管理や破損時の対応、施設の開閉方法について協議、運用の枠組みを整理した。

また、休日の学校施設利用に関しては、体育館の日程調整を進めるとともに、民間事業者の利用承諾に関する考え方を検討。今後も円滑な施設運用に向けた調整を継続する。

##### 今後の課題と対応方針

施設利用に関するルールを試行した結果、利用調整・備品管理・破損対応・安全管理の各面で課題が浮上した。利用対象者やスケジュール調整については、公平性を保ちつつ、学校行事との調整をスムーズに行う仕組みが必要である。備品管理では、消耗品や高額備品の修繕費負担のルールを明確化する必要がある。破損時の補償については、スポーツ安全保険の適用範囲が限定的であり、追加の補償制度の検討が求められる。安全管理面では、防犯対策や事故時の対応フローを標準化し、指導者への研修を充実させる。今後は、統一ルールの策定と、運用の継続的な見直しを進め、持続可能な施設管理体制を構築する。

##### 取組の成果

項目	検討内容
利用対象者・団体	<ul style="list-style-type: none"><li>学校施設の利用対象として、地域クラブや民間事業者を受け入れる枠組みを試行。</li><li>地域楽団との連携により、施設利用の実績を積んだ。</li></ul>
利用時間・スケジュール管理	<ul style="list-style-type: none"><li>休日や放課後の施設利用枠を試験的に設定し、学校行事や部活動との調整を実施。</li><li>合同部活動や合同チームによる共有利用が可能であることを確認。</li></ul>
設備・備品の管理	<ul style="list-style-type: none"><li>施設内の備品管理について、使用前後の点検ルールを導入し、記録を残す運用を実施。</li><li>部活動と地域クラブ間での備品共有を試行し、可能な範囲で活用を推進。</li></ul>
破損・汚損時の対応	<ul style="list-style-type: none"><li>実証時は、「スポーツ安全保険」を活用。</li><li>ただし、破損の場合の補償については、原因や状況により、対象とならない場合があることを確認。</li></ul>
安全管理・防犯対策	<ul style="list-style-type: none"><li>施設の施錠管理を統一し、鍵の受け渡し方法を明確化。</li><li>指導者の監督責任を強化し、安全確保の意識を高めた。</li></ul>

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

令和6年度、狛江市では部活動の地域移行に向けた実証事業を実施し、活動場所の確保、指導者の確保・育成、受益者負担の検討、関係団体との連携強化を進めた。本事業では、学校施設の利用方法やルールの整備を行い、民間事業者や地域団体との協力を試みた。アンケート調査を通じて、保護者の費用負担に対する意識や、部活動に求める価値観を把握し、今後の方向性を検討する貴重な機会となった。一方で、地域移行に伴う課題として、活動場所の公平な確保、指導者の質の担保、費用負担の在り方が浮き彫りになった。特に、費用負担に関しては、参加費を許容する家庭と困難な家庭が存在し、支援策の検討が必要であることが明らかになった。また、指導者の確保については、専門性の向上と地域連携の強化が求められる。今後は、これらの課題を踏まえ、持続可能な運営モデルの確立を目指す。公的支援や補助制度の活用、指導者の研修・確保、地域資源の有効活用を進め、すべての生徒が公平に部活動へ参加できる環境づくりを推進する。

#### ●成果の評価

本実証事業では、学校施設の活用、指導者確保のためのEラーニング研修導入、受益者負担の実態調査、地域クラブとの連携強化といった取り組みを進めた。吹奏楽部の実証事業では、地域楽団との協力により活動の幅が広がり、ウィンターコンサートの実施という成果が得られた。また、休日の学校施設利用についても管理ルールが整理され、今後の運用に向けた基盤が整った。一方、指導者の確保と質の向上が課題として残り、Eラーニング研修だけでは実践的な指導力を十分に高められないことが明らかになった。費用負担についても、75%が月3,000～5,000円を許容する一方、15%が負担があれば参加しないと回答し、支援策の必要性が示された。今後、指導者の実地研修の充実、費用負担の公平性確保、公的支援や補助制度の検討を進め、すべての生徒が公平に参加できる持続可能な部活動運営を目指す。

#### ●今後に向けて

本実証事業を通じ、指導者の確保、施設の活用、受益者負担の検討、地域連携の強化が進められた。一方で、生徒数や教員数の減少、指導者の質の向上、経済的負担の公平性確保といった課題が明らかになった。今後は、拠点校化や合同部活動を推進し、地域クラブ活動への段階的な移行を進める。また、指導者の増員と研修強化により、安定した指導体制を整備する。施設活用についても、中学校施設を基軸としながら市の公共施設や民間クラブと連携し、多様な活動機会を確保する。さらに、部活動のニーズを踏まえた柔軟な運営と、保護者・生徒への丁寧な説明を行い、公平で持続可能な「狛江方式部活動」の構築を目指す。

## 2.実証内容と成果②

### アンケート結果・参加者の声

#### ●アンケート結果

○あなた、またはお子様は今、部活動に入っていますか。

	運動系の部活動に入っている	文化系の部活動に入っている	入っていない
中学校生徒の回答	64.3%	30.6%	5.1%
中学校保護者の回答	56.6%	34.2%	9.2%

○部活動の地域移行が進むと学校の教員以外の方が指導者になる形が増えることが予想されます。学校の教員以外の方が部活動に関わること(指導や引率など)について、どう思いますか。

	とてもよいと思う	よいと思う	あまりよくないと思う	よくないと思う
中学校生徒の回答	31.6%	54.1%	11.4%	2.9%
中学校保護者の回答	32.2%	59.7%	6.8%	1.4%
中学校教職員の回答	43.4%	35.8%	18.9%	1.9%

○部活動の地域移行が進むと、他校と一緒に活動する機会が増えることが予想されます。近くの学校や市内の中学校と一緒に活動することについて、どう思いますか。

	とてもよいと思う	よいと思う	あまりよくないと思う	よくないと思う
中学校生徒の回答	37.8%	39.0%	16.7%	6.5%
中学校保護者の回答	33.6%	58.3%	7.5%	0.7%
中学校教職員の回答	37.7%	45.3%	13.2%	3.8%

○部活動の地域移行が進むと、入部できる部活動の種類が増えることが予想されます。生徒にとって、部活動の種類が増えることについてどう思いますか。

	とてもよいと思う	よいと思う	あまりよくないと思う	よくないと思う
中学校生徒の回答	53.9%	38.0%	6.1%	2.0%
中学校保護者の回答	61.0%	36.9%	2.0%	0%
中学校教職員の回答	52.8%	35.8%	7.5%	3.8%

○部活動の地域移行が進むと、学校以外の施設で活動する部活動が出てくるが増えることが予想されます。市内の施設等で活動をする部活動ができることについて、どう思いますか。

	とてもよいと思う	よいと思う	あまりよくないと思う	よくないと思う
中学校生徒の回答	37.6%	43.5%	15.1%	3.7%
中学校保護者の回答	22.0%	59.3%	14.2%	4.4%
中学校教職員の回答	47.2%	43.4%	9.4%	0%

○部活動の地域移行が進むと、複数校合同チームで大会(コンクール等)に参加する部活が出るが予想されます。近くの中学校や市内の中学校と合同部活動(合同チーム)となり、活動や大会(コンクール等)に参加することについて、どう思いますか。

	とてもよいと思う	よいと思う	あまりよくないと思う	よくないと思う
中学校生徒の回答	25.1%	41.6%	23.9%	9.4%
中学校保護者の回答	25.8%	60.3%	12.2%	1.7%
中学校教職員の回答	35.8%	43.3%	13.2%	7.5%



### 参考資料（活動写真）



吹奏楽ウインターコンサートの様子



吹奏楽ウインターコンサートの様子



吹奏楽ウインターコンサートの様子



吹奏楽ウインターコンサートの様子

## 地域文化クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年6月

関係者間の協議・意見交換の実施

他自治体の事例調査とモデルケースの検討

令和6年8月

指導者の確保と施設利用の調整

事前説明会と参加生徒の募集・調整

令和6年10月

モデル実証の運営とフィードバック収集

成果評価と今後の計画策定

### 1.ステークホルダー

- 自治体関係者（教育委員会、市議会、スポーツ・文化振興課）
- 学校関係者（小・中学校校長会、教員、PTA代表）
- 文化・地域団体（民間クラブ、芸術・文化振興団体）
- 専門家・行政機関（スポーツ庁、文科省、地域移行の先行事例を持つ自治体）

### 2.経過

- 部活動の地域移行に関する基本方針の確認
- 既存の文化部活動の実態調査（指導者、施設利用、費用構造）
- 関係者へのヒアリング実施（課題の洗い出し）
- 他自治体の事例調査・分析

### 3.実施にあたって生じた課題

- 保護者や教員の意識の違い（地域移行への理解・抵抗感）
- 文化部活動に適した指導者の確保（既存指導者の関与をどうするか）

### 4.実施内容・工夫した点

- ステークホルダーごとの意見交換会の実施

### 1.ステークホルダー

- 自治体関係者（教育委員会）
- 委託事業者（外部指導者）
- 学校関係者（モデル校の校長・担当教員）
- 保護者・生徒（参加希望者、PTA代表）

### 2.経過

- 委託事業者の選定・契約締結（9月）
- 事業計画の詳細調整（活動内容、施設利用、費用負担の設定）
- 指導者の確保・施設利用調整（10月）
- 事前説明会の開催（対象生徒・保護者向け）

### 3.実施にあたって生じた課題

- 指導者の雇用・契約形態（公的支援の対象範囲、待遇問題）
- 休日活動時の安全管理（指導体制、移動手手段の確保）

### 4.実施内容・工夫した点

- モデル校での試験運用を提案し、スムーズな導入を図る
- 施設利用ルールの明確化（学校・市の公共施設の調整）
- 指導者向け運営マニュアルおよび研修を実施（指導の質を一定に保つ）

### 1.ステークホルダー

- 自治体関係者（教育委員会、契約担当者）
- モデル校関係者（校長、部活動担当教員、外部指導者）
- 保護者・生徒（参加者、協力者）
- 文化クラブ・地域団体（指導者、地域吹奏楽団）

### 2.経過

- 吹奏楽部のモデル実証開始（11月）
- 活動状況の記録・指導者・生徒のフィードバック収集
- モデル実証終了後のヒアリング（12月）
- アンケート回収・分析（1月）
- 報告書提出・次年度計画の策定（2月）

### 3.実施にあたって生じた課題

- 休日活動時の管理責任（事故・トラブル対応の明確化）
- 指導者と学校間の連携不足（情報共有の仕組み構築）
- 参加生徒の意欲・継続率（指導の質・活動の魅力）

### 4.実施内容・工夫した点

- 休日活動のルール明確化（移動手手段・安全管理を含む）
- 生徒の満足度向上のため、合同演奏会（ウインターコンサート）を開催

# 3. 今後の方向性

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

### 【狛江市における「中学校部活動」の目指す姿】

#### ○生徒の姿

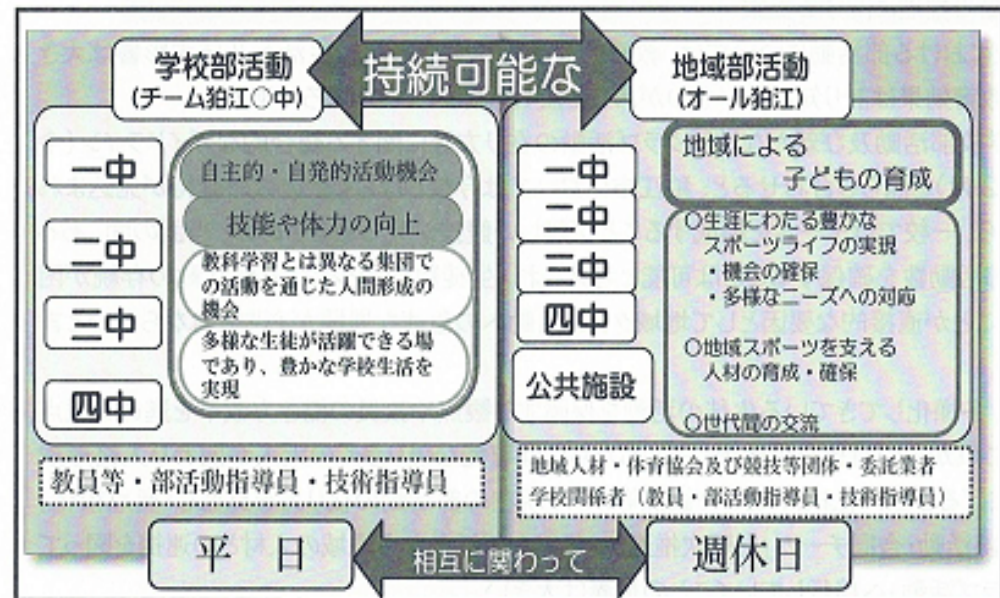
- ・在籍する学校にない部活動でも参加できる。
- ・他校との交流により、学校生活への向上心が高まる。
- ・技術、技能の向上が図られ、意欲的に活動している。

#### ○学校の姿

- ・安全に活動できる環境を整えている。
- ・部活動への関わりについて、保護者・地域の理解を得ている。
- ・スポーツ及び文化芸術・科学活動の拠点となっている。

#### ○保護者・地域等の姿

- ・部活動を支援し、学校と連携して生徒の成長を見守っている。
- ・部活動に積極的に関与し、生徒の活動を保障している。



令和7年度	令和8年度	令和9年度
	拠点校化 合同部活動 合同チーム	
		地域クラブ活動への移行を検討